

国有林の地域別の森林計画書

(若狭森林計画区)

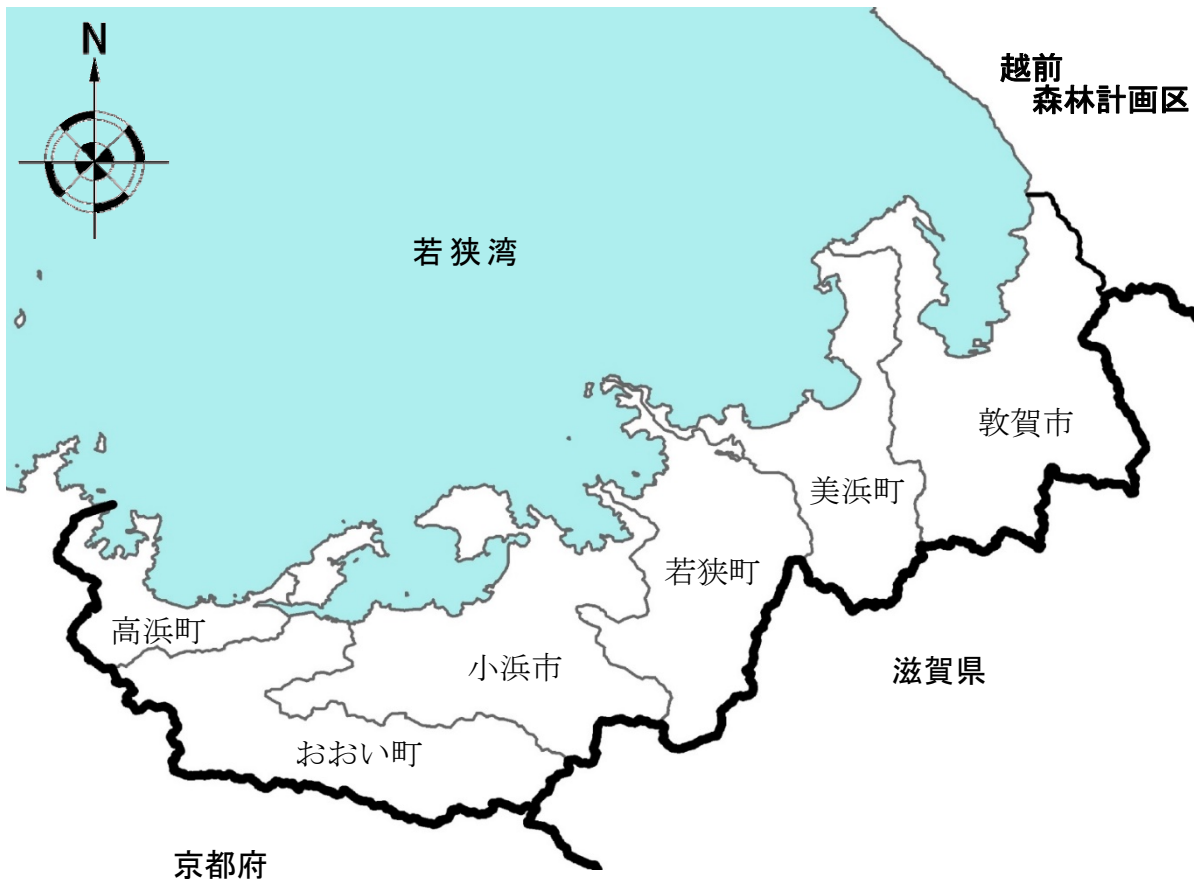
計画期間 自 令和 5年 4月 1日
至 令和15年 3月31日

近畿中国森林管理局

ま え が き

本計画は、森林法第7条の2の規定に基づき、全国森林計画に即して、若狭森林計画区のうち林野庁所管の国有林について樹立した令和5年4月1日から令和15年3月31日までの10年間を計画期間とする「国有林の地域別の森林計画」です。

若狭森林計画区の位置図



凡	例
府 県 界	—————
森 林 計 画 区 界	—————
市 町 村 界	—————

担当者の職名及び氏名並びに樹立に従事した期間

1 担当者の職名及び氏名

計 画 課	課 長	野 木 宏 祐
	流域管理指導官	福 本 真 也
	林地保全企画官	高 井 和 巳
	計 画 調 整 官	大 井 秀 明
	計 画 調 整 官	片 桐 亜由美
	経 営 計 画 官	山 崎 和 仁

2 樹立に従事した期間

自 令和4年 4月 1日

至 令和4年12月31日

目 次

I	計画の大綱	1
1	森林計画区の概況	1
(1)	自然的条件	1
(2)	社会経済的背景	2
(3)	森林計画区における国有林の位置付け	3
2	前計画の実行結果の概要及びその評価	4
(1)	伐採立木材積	4
(2)	人工造林及び天然更新別の造林面積	4
(3)	林道の開設又は拡張の数量	4
(4)	治山事業	5
3	計画樹立に当たっての基本的考え方	5
II	計画事項	6
第1	計画の対象とする森林の区域	6
第2	森林の整備及び保全に関する基本的な事項	7
1	森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項	7
(1)	森林の整備及び保全の目標	7
(2)	森林の整備及び保全の基本方針	7
(3)	計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等	10
2	その他必要な事項	10
第3	森林の整備に関する事項	11
1	森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く。）	11
(1)	立木の伐採（主伐）の標準的な方法	11
(2)	立木の標準伐期齢	13
(3)	その他必要な事項	14
2	造林に関する事項	14
(1)	人工造林に関する基本的事項	14
(2)	天然更新に関する基本的事項	15
(3)	その他必要な事項	15

3 間伐及び保育に関する事項	16
(1) 間伐の標準的な方法	16
(2) 保育の標準的な方法	16
(3) その他必要な事項	17
4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項	17
(1) 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における森林施業の方法	17
(2) その他必要な事項	18
5 林道等の開設その他林産物の搬出に関する事項	19
(1) 林道等の開設及び改良に関する基本的な考え方	19
(2) 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムの 基本的な考え方	20
(3) 林産物の搬出方法等	20
(4) 更新を確保するため林産物の搬出方法を特定する森林の所在及びその搬出方法	20
(5) その他必要な事項	21
6 森林施業の合理化に関する事項	21
(1) 林業に従事する者の養成及び確保に関する方針	21
(2) 作業システムの高度化に資する林業機械の導入の促進に関する方針	21
(3) 林産物の利用促進のための施設の整備に関する方針	22
(4) その他必要な事項	22
第4 森林の保全に関する事項	23
1 森林の土地の保全に関する事項	23
(1) 樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区	23
(2) 森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を特定する必要がある森林及びその 搬出方法	23
(3) 土地の形質の変更に当たって留意すべき事項	24
(4) その他必要な事項	24
2 保安施設に関する事項	24
(1) 保安林の整備に関する事項	24
(2) 保安施設地区に関する事項	24
(3) 治山事業に関する事項	24
(4) その他必要な事項	25

3	鳥獣害の防止に関する事項	25
	(1) 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止方針	25
	(2) その他必要な事項	25
4	森林病虫害の駆除及び予防その他の森林の保護に関する事項	26
	(1) 森林病虫害等の被害対策の方針	26
	(2) 鳥獣害対策の方針（3に掲げる事項を除く。）	26
	(3) 林野火災の予防の方針	26
	(4) その他必要な事項	26
第5	計画量等	27
1	伐採立木材積	27
2	間伐面積	27
3	人工造林及び天然更新別の造林面積	27
4	林道の開設又は拡張に関する計画	28
5	保安林整備及び治山事業に関する計画	28
	(1) 保安林として管理すべき森林の種類別面積等	28
	(2) 保安施設地区として指定することを相当とする土地の所在及び面積等	29
	(3) 実施すべき治山事業の数量	30
第6	その他必要な事項	31
	○ 保安林その他法令により施業について制限を受けている森林の施業方法	31
	(1) 法令により施業について制限を受けている森林	31
	(2) 制限林の施業方法	32
別表1	公益的機能別施業森林の区域及び施業方法	34
1	水源の涵養^{かん}の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	34
2	土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	34
	(1) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	34
	(2) 快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	34
	(3) 保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	35
別表2	鳥獣害防止森林区域	35

(附) 参 考 資 料

1 森林計画区の概要	39
(1) 市町村別土地面積及び森林面積.....	39
(2) 地況.....	39
(3) 土地利用の現況.....	41
(4) 産業別生産額.....	41
(5) 産業別就業者数.....	41
2 森林の現況（国有林）	42
(1) 齢級別森林資源表.....	42
(2) 制限林普通林別森林資源表.....	47
(3) 市町村別森林資源表.....	48
(4) 制限林の種類別面積.....	50
(5) 樹種別材積表.....	51
(6) 荒廃地等の面積.....	51
(7) 森林の被害.....	52
(8) 防火線等の整備状況.....	52
3 林業の動向	53
(1) 保有山林規模別林家数.....	53
(2) 森林経営計画の認定状況.....	53
(3) 森林組合の現況.....	54
(4) 林業事業体の現況.....	56
(5) 林業労働力の概況.....	56
(6) 林業機械化の概況.....	57
(7) 作業路網等の整備の概況.....	57
4 前期計画の実行状況	58
(1) 間伐立木材積その他の伐採立木材積.....	58
(2) 間伐面積.....	58
(3) 人工造林・天然更新別面積.....	58
(4) 林道の開設又は拡張の数量.....	59
(5) 保安林の整備及び治山事業に関する計画.....	59
5 林地の異動状況（森林計画の対象森林）	59
(1) 森林より森林以外への異動.....	59
(2) 森林以外より森林への異動.....	59
6 森林資源の推移	60
(1) 分期別伐採立木材積等.....	60
(2) 分期別期首資源表.....	62
7 その他	64
(1) 持続的伐採可能量.....	64

I 計画の大綱

1 森林計画区の概況

(1) 自然的条件

ア 位置及び面積

若狭森林計画区は、由良川広域流域に属し、福井県の南部に位置しており、東は越前森林計画区、西は京都府、南は滋賀県に接し、北は若狭湾に面しています。その区域面積は110千haで、福井県総面積の26%を占めています。

本計画区に包括される行政区域は、敦賀市をはじめとする2市4町です。

国有林（国有林野の管理経営に関する法律第2条に定める森林及び公有林野等官行造林地（計画対象外森林を除く。）以下同じ。）は、大部分が県境に分散して所在し、その面積は7千haです。

イ 地勢

計画区は、野坂山地、三遠山地、若丹山地、青葉火山地、敦賀平野、三方低地及び小浜平野からなり、若狭湾に面し東西に細長く、海岸線は典型的なリアス式海岸となっています。

野坂山地は、敦賀市東部の柳ヶ瀬山断層と若狭町東部の三方断層との間に位置し、鉢伏山（762m）、野坂岳（913m）、三十三間山（842m）等を擁しています。この山地は南北方向に複数の断層が走り、ブロック化した山地を形成しています。

また、若狭湾に突出した敦賀半島はほぼ全域に花崗岩が露出し、半島北部ではその節理がよく発達しています。

三遠山地は、若狭町から小浜市の東部を含む三方断層と若狭町中央部の熊川断層に挟まれた三遠三角地に位置し、標高は200～300mと他の山地より低いものの急峻な地形で、造山期末期の典型的な形態を成しています。

若丹山地は、熊川断層以西から京都府境に沿って高浜町に至る山地で、百里ヶ岳（931m）、八ヶ峰（800m）、頭巾山（871m）等を擁し、山地内部には多くの断層が縦横に走っています。

青葉火山地は高浜町西部に位置し、コニーデ型の青葉山（693m）は、若狭富士の愛称と共に、この地方の風景に一段の精彩を加えています。

敦賀平野は、敦賀湾の陥没後、ここに注ぐ笙の川、黒河川、井の口川等により形成された平野で、それぞれが明瞭な扇状地を形成しています。

三方低地は、三方断層に沿う沈降低地、三方湖沿岸、耳川下流の小低地域であり、沈降によって造られた低地となっていますが、山麓にはその後の隆起による段丘地形もみられます。この低地には三方五湖があり、若狭湾のリアス式海岸とともに若狭湾国定公園のな

かでも優れた景勝地となっています。

小浜平野は、熊川断層と三遠山地との間に位置する低地です。平野内は北川が流れ、河口近くでは西南に位置する若丹山地から流れてきた南川とともに三角州をつくり小浜湾に注いでいます。

ウ 地質及び土壌

地質は、東部の敦賀市を中心に広がる花崗岩類とおおい町を中心に広がる古生層、西部に分布する塩基性火成岩類、新第三紀層に区分できます。

東部の敦賀半島、黒河川流域、三方周辺には中生代の黒雲母花崗岩が、また、鉢伏山付近には角閃石花崗岩が分布しており、敦賀市の平野部は新生代第四紀沖積層から成っています。

土壌は、鉢伏山の一部稜線に乾性弱ポドソル土壌が出現している外は、乾性褐色森林土（粒状・堅果状構造型）、適潤性褐色森林土（偏乾亜型）であり、敦賀半島では大部分を占めています。また、黒河川流域の一部では適潤性褐色森林土が多く見られますが、一部には弱湿性褐色森林土も分布しています。

三遠山地は、古生代二畳紀の粘板岩、砂岩、チャート、頁岩等からなり、互層に成っている場合が多いです。山地周辺には、赤色土も分布していますが大半は乾性褐色森林土（粒状・堅果状構造型）が帯状に分布しています。

若丹山地は、古生代の粘板岩、砂岩、チャート等から形成され、土壌も適潤性褐色森林土が多く分布し、木材生産能力の高い地域となっています。

なお、大島半島から鉾生谷にかけては、中生代の蛇紋岩、閃緑岩等が分布し、塩基系暗赤色土と赤色土から成っています。

西部の青葉火山地は新生代の安山岩、紫蘇輝石類、新第三紀の変朽安山岩、頁岩、礫岩、砂岩等から成っており、青葉山の周辺には適潤性褐色森林土のほか、乾性褐色森林土（粒状・堅果状構造型）も多く分布しています。

エ 気候

令和3年の気候は、東部（観測所:敦賀）は、年平均気温 16.2℃、年降水量 2,455 mmで、西部（観測所:小浜）は、年平均気温 15.6℃、年降水量 1,958 mmです。対馬暖流の影響を受けていることから、冬の気候は比較的温暖で降水量も少なくなっています。（令和3年気象庁資料）

(2) 社会経済的背景

ア 土地利用の状況

森林面積は 88 千 ha で、森林率は 80%を占めており、福井県全体の 74%と比べて少し高い割合となっています。（令和2年度福井県林業統計書）

イ 人口及び産業の状況

人口は、13.5 万人で福井県総人口の 18%となっています。就業者数は 7.1 万人で産業別内訳は第 1 次産業が 4% (2.9 千人のうち林業就業者数 91 人)、第 2 次産業が 27%、第 3 次産業が 69%となっています。(令和 2 年国勢調査)

ウ 交通の状況

交通網は、敦賀市には、国道 8 号、161 号、北陸自動車道及び JR 北陸本線が南北に走り、北陸と関西や中京を結ぶ大動脈となっています。また、国道 27 号、近畿自動車道敦賀線は JR 小浜線と並行しながら、敦賀市、小浜市、高浜町、京都府へと縦貫し、計画区の幹線道路として大きな役割を果たしています。国道 303 号は若狭町から滋賀県へ通じ、国道 162 号は小浜市、おおい町を經由し京都府へ通じています。

(3) 森林計画区における国有林の位置付け

国有林面積は 7 千 ha で、計画区の森林面積 88 千 ha の 9%を占めています。

県境に分散して所在する国有林は、笙の川、北川、南川等の水源地帯に所在し、国土保全、水源涵養等の公益的機能の発揮が期待されています。

また、日本三大松原の一つとされる気比の松原や戦国時代の攻防戦の舞台となった天筒山に国有林が所在し、保健・文化・レクリエーション利用の場として多くの人に利用されています。

2 前計画の実行結果の概要及びその評価

(1) 伐採立木材積

主伐、間伐ともにほぼ計画どおりの実績となりました。

単位：材積 m³、実行歩合 %、面積 ha

区分	伐 採 立 木 材 積								
	計 画			実 行			実 行 歩 合		
	主 伐	間 伐	総 数	主 伐	間 伐	総 数	主伐	間伐	総数
総 数	2,169	<369> 35,591	(4,000) 37,760	2,078	<255> 35,005	(1,584) 37,083	96	<69> 98	(40) 98

- 注：1 計画欄は、前計画の前半5ヶ年に相当する数値です。
 2 実行欄は、平成30～令和3年度実績と令和4年度見込量の合計です。
 3 <>は間伐面積です。
 4 ()は外書で、地域管理経営計画等においてあらかじめ伐採箇所が特定できない臨時伐採量です。

(2) 人工造林及び天然更新別の造林面積

人工造林は、主伐計画箇所のうち令和4年度実績となった箇所について、本計画で更新を計上することから、計画を下回る実績となりました。

単位：面積 ha、実行歩合 %

総 数			人 工 造 林			天 然 更 新		
計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
6	1	17	6	1	17	—	—	—

- 注：1 計画欄は、前計画の前半5ヶ年に相当する数値です。
 2 実行欄は、平成30～令和3年度実績と令和4年度見込量の合計です。
 3 四捨五入により総数と内訳が合わないことがあります。

(3) 林道の開設又は拡張の数量

開設は、森林施業の計画に応じて優先度を勘案した結果、実施はありませんでした。

拡張は、集中豪雨等により発生した被災箇所について緊急性を考慮の上、実施しました。

単位：延長 km、箇所数 箇所、実行歩合 %

区 分	開 設 延 長			拡 張 箇 所 数		
	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
基幹路網	1.5	0	0	—	12	皆増
うち林業専用道	1.5	0	0	—	1	皆増

- 注：1 計画欄は、前計画の前半5ヶ年に相当する数値です。
 2 実行欄は、平成30～令和3年度実績と令和4年度見込量の合計です。
 3 基幹路網とは、林道及び林業専用道を指します。

(4) 治山事業

保全施設は、自然災害の発生に応じて緊急性を勘案し実施した結果、計画を下回る実績となりました。

保安林の整備は、現地を精査し、優先度を勘案のうえ実施した結果、計画を上回る実績となりました。

単位：保全施設 地区、保安林の整備 ha、実行歩合 %

区 分	計 画	実 行	実 行 歩 合
保 全 施 設	5	4	80
保安林の整備	49	85	173

注：1 計画欄は、前計画の前半5ヶ年に相当する数値です。

2 実行欄は、平成30～令和3年度実績と令和4年度見込量の合計です。

3 計画樹立に当たっての基本的考え方

本計画区の国有林は、国土の保全、水源の涵^{かん}養、地球温暖化防止等の多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びついています。

また、本計画区の国有林は、戦後に積極的に造成された人工林を主体に蓄積が年々増加しており、多くの人工林が利用期を迎えています。

これらの森林資源を有効に利用しながら、計画的に再造成し、森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図るためには、より効率的かつ効果的な森林の整備及び保全を進めていく必要があります。こうした情勢を踏まえ、森林の現況、自然条件及び社会的条件、国民のニーズ等に応じて、施業方法を適切に選択し、計画的に森林の整備及び保全を進めながら、望ましい森林の姿を目指します。

その際、全ての森林が多種多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与していることを踏まえ、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件等に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林をバランス良く配置するよう努めます。

この計画は、全国森林計画に即し、本計画区の国有林について、このような考え方に基づき自然条件、社会的条件、地域の動向、前計画の実行結果やその評価等を踏まえつつ、森林の整備及び保全の目標、森林施業、林道の開設、森林の土地の保全、保安施設等に関する事項を明らかにしたものです。

計画の実行に当たっては、民有林との連携のもと効率的な実行の確保が図られるよう努めます。

II 計画事項

第1 計画の対象とする森林の区域

○市町村別面積

単位：ha

区 分		総 数	国有林野	公有林野等 官行造林地
総 数		7,438.93	7,363.61	75.32
市 町 村 別 内 訳	敦 賀 市	4,785.48	4,785.48	—
	小 浜 市	687.26	687.26	—
	おおい町	1,434.07	1,403.98	30.09
	若 狭 町	532.12	486.89	45.23

注：1 本表の面積は令和4年3月31日現在の数値です。

2 本計画の対象とする森林の区域は、森林計画図において表示する区域内の国有林です。

3 森林計画図の縦覧場所

大阪府大阪市北区天満橋1-8-75

近畿中国森林管理局

福井県福井市大手2-11-15

福井森林管理署

第2 森林の整備及び保全に関する基本的な事項

1 森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項

(1) 森林の整備及び保全の目標

ア 水源涵養機能

下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林であって、必要に応じて浸透を促進する施設等が整備されている森林

イ 山地災害防止機能／土壌保全機能

下層植生が生育するための空間が確保され適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し、土壌を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて山地災害を防ぐ施設が整備されている森林

ウ 快適環境形成機能

樹高が高く枝葉が多く茂っているなど遮蔽能力や汚染物質の吸着能力が高く、諸被害に対する抵抗性が高い森林

エ 保健・レクリエーション機能

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり住民等に憩いと学びの場を提供している森林であって、必要に応じて保健・教育的活動に適した施設が整備されている森林

オ 文化機能

史跡、名勝等と一体となって、潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化活動に適した施設が整備されている森林

カ 生物多様性保全機能

原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林

キ 木材等生産機能

林木の生育に適した土壌を有し、木材として利用する上で良好な樹木により構成され成長量が高い森林であって、林道等の基盤施設が適切に整備されている森林

(2) 森林の整備及び保全の基本方針

森林の整備及び保全に当たっては、森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、適正な森林施業の実施や森林の保全の確保により健全な森林資源の維持造成を推進します。

具体的には、森林の諸機能が発揮される場である「流域」を基本的な単位として、森林の有する水源涵養、山地災害防止／土壌保全、快適環境形成、保健・レクリエーション、文化、生物多様性保全及び木材等生産の各機能を高度に発揮するための適切な森林施業、林道等の路網の整備、保安林制度の適切な運用、山地災害の防止、森林病虫害や野生鳥獣

害対策、花粉発生源対策などの森林の保護等に関する取組を推進します。

その際、生物多様性の保全や地球温暖化の防止に果たす役割はもとより急速な少子高齢化と人口減少等の社会的情勢の変化、豪雨の増加等の自然環境の変化、流域治水と連携した対策の必要性にも配慮しつつ、各機能の充実と機能間の調整を図り、適正な森林施業の実施や森林の保全の確保により、健全な森林資源の維持造成を推進します。また、森林資源の状況を適確に把握するための森林資源のモニタリングの適切な実施や、リモートセンシング及び森林GISの効果的な活用を図ります。

森林の有する機能ごとの森林整備及び保全の基本方針は次のとおりです。

ア 水源涵養機能

ダム集水区域や主要な河川の上流に位置する水源地周辺の森林並びに地域の用水源として重要なため池、湧水地及び溪流等の周辺に存する森林は、水源涵養機能の維持増進を図る森林として整備及び保全します。

具体的には、洪水の緩和や良質な水の安定供給を確保する観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、下層植生や樹木の根を発達させる施業を行うとともに、伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図ります。また、自然条件や国民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進します。

ダム等の利水施設上流部等において、水源涵養機能が十全に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を行います。

イ 山地災害防止機能／土壌保全機能

山腹崩壊等により人命や人家等施設に被害を及ぼすおそれがある森林など、土砂の流出、土砂の崩壊、その他山地災害の防備を図る必要のある森林、気象条件や地形条件等からみて飛砂、潮害、津波等の災害発生の危険度の高い森林については、山地災害防止機能／土壌保全機能の維持増進を図る森林として整備及び保全します。

具体的には、災害に強い国土を形成する観点から、地形、地質等の条件を考慮した上で、林床の裸地化の縮小及び回避を図る施業を推進します。また、自然条件や国民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進します。

集落等に近接する山地災害の発生の危険性が高い地域等において、土砂の流出防備等の機能が十全に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を推進するとともに、溪岸の侵食防止や山脚の固定等を図る必要がある場合には、谷止や土留等の施設を設置します。

また、災害発生の危険度の高い海岸林の適切な管理、保全、再生等を行います。

ウ 快適環境形成機能

国民の日常生活に密接な関わりを持つ里山等であって、騒音や粉塵等の影響を緩和する森林及び森林の所在する位置、気象条件等からみて風害、霧害等の気象災害を防止する効果が高い森林については、快適環境形成機能の維持増進を図る森林として整備及び保全します。

具体的には、地域の快適な生活環境を保全する観点から、風や騒音等の防備や大気の浄化のために有効な森林の構成の維持を基本とし、樹種の多様性を増進する施業や適切な保育・間伐等を実施します。

また、快適な環境の保全のための保安林の指定やその適切な管理、防風、防潮等に重要な役割を果たしている海岸林等の保全を行います。

エ 保健・レクリエーション機能

観光的に魅力ある高原、渓谷等の自然景観や植物群落を有する森林、キャンプ場や森林公園等の施設を伴う森林など、国民の保健・教育的利用等に適した森林については、保健・レクリエーション機能の維持増進を図る森林として整備及び保全します。

具体的には、国民に憩いの場や学びの場、都市住民と山村との交流の場などを提供する観点から、自然条件や国民のニーズ等に応じ広葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を行います。

また、保健等のための保安林の指定やその適切な管理を行います。

オ 文化機能

世界文化遺産、国宝、重要文化財、史跡、名勝等の所在する森林や、これらと一体となり優れた自然景観等を形成する森林については、潤いある自然景観や歴史的風致を構成する観点から、文化機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を行います。

具体的には、美的景観の維持・形成に配慮した森林整備を行います。

また、風致のための保安林の指定やその適切な管理を行います。

カ 生物多様性保全機能

全ての森林が多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与していることを踏まえ、森林生態系の不確実性を踏まえた順応的管理の考え方にに基づき、時間軸を通して適度な攪乱かくらんにより常に変化しながらも、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件・立地条件に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置されていることを目指します。

とりわけ、原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林けいはんなどの属地的に機能の発揮が求められる森林については、生物多様性保全機能の維持増進を図る森林として保全します。また、野生生物のための回廊の確保にも配慮します。

キ 木材等生産機能

林木の生育に適した森林で、効率的な森林施業が可能な森林は、木材等生産機能の維持増進を図る森林として整備します。

具体的には、木材等の林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給する観点から、森林の健全性を確保し、木材需要に応じた樹種、径級の林木を生育させるための適切な造林、保育及び間伐等を行います。また、将来にわたり育成単層林として維持する森林では、主伐後の植栽による確実な更新を行います。この場合、施業の集団化や機械化を通じた

効率的な整備を推進することを基本とします。

(3) 計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等

○計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態

単位：面積 ha、蓄積 m³/ha

区 分		現 況	計画期末
面 積	育成単層林	3,541	3,496
	育成複層林	15	44
	天然生林	3,723	3,723
森 林 蓄 積		152	161

注：1 育成単層林

森林を構成する林木を皆伐により伐採し、単一の樹冠層を構成する森林として人為※により成立させ維持される森林のことをいいます。例えば、植栽によるスギ・ヒノキからなる森林が該当します。

2 育成複層林

森林を構成する林木を択伐等により伐採し、複数の樹冠層※を構成する森林として人為により成立させ維持される森林のことをいいます。例えば、針葉樹を上木とし、広葉樹を下木とする森林が該当します。

3 天然生林

主として天然力※を活用することにより成立させ維持される森林（未立木地、竹林等を含む。）のことをいいます。例えば、天然更新によるシイ・カシ・ブナ・コメツガ等からなる森林が該当します。

※ 「人為」とは、目的に応じ、植栽、更新補助（天然下種更新のための地表のかきおこし・刈払い等）、芽かき、下刈り、除伐等の保育及び間伐等の作業を行うことです。「複数の樹冠層」とは、林齢や樹種の違いから樹木の高さが異なることにより生ずるものをいいます。「天然力」とは、自然に散布された種子が発芽・生育することです。

2 その他必要な事項

特に記すべき事項はありません。

第3 森林の整備に関する事項

1 森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く。）

(1) 立木の伐採（主伐）の標準的な方法

森林の有する多面的な機能の維持増進を図るために、立地条件、地域における既往の施業体系、樹種の特長、木材需要構造、森林の構成等を勘案するとともに、伐採・搬出に当たっては、「主伐における伐採・搬出指針」（令和3年3月16日付け2林整整第1157号林野庁長官通知）を踏まえて行うものとし、立木の伐採の標準的な方法は次のとおりとします。

ア 皆伐を行う森林

(7) 皆伐新植を行う森林

a 対象森林

皆伐新植は、気候、地形、土壌等の自然的条件、林業技術、森林被害の発生状況等からみて、人工林の造成が確実であり、かつ人工林施業による森林生産力の増大が十分期待できる森林について行います。

また、気候、地形、土壌等の自然条件、林業技術体系等からみて複層林の造成が確実であり、かつ複層林の造成による多様な木材の生産が期待される林分で、林道の整備状況等からみて複層林施業を行うことが適切な林分については当該施業を行います。

b 生産目標別の主伐の時期

皆伐を行う人工林の主伐は、樹種ごとの生産目標に対応する径級に達した時期に行います。本計画区における樹種別、生産目標別の主伐時期の目安は、次のとおりとします。

地区	樹種	標準的な施業体系			主伐時期の目安(年)
		生産目標	仕立方法	期待径級(cm)	
全域	スギ	一般建築材	中仕立	24~28	65
	ヒノキ	一般建築材	中仕立	20~24	65
	マツ	一般建築材	中仕立	30	80

注：期待径級は、主伐の目安の林齢の胸高直径です。

c 伐区の形状その他立木の伐採・搬出に関する留意事項

(a) 国有林（公有林野等官行造林地を除く。）

<1> 伐採に当たっては、森林の有する公益的機能の発揮を確保するため、気候、地形、土壌等の自然条件を踏まえ、伐採の規模、周辺の伐採地との連担等を十分考慮します。特に、林地の崩壊の危険のある箇所、溪流沿い、尾根筋等につ

いて、林地の保全や生物多様性の保全等に支障がないよう、伐採の適否、伐採方法を決定します。

<2> 1箇所当たりの伐採面積は、制限林のうち保安林及び自然公園第3種特別地域は、おおむね5ha以下（ただし、1伐採箇所の面積の限度が5ha以下で指定されている保安林等はその制限の範囲内とします。保安林における伐採年度当たりの皆伐面積の限度は、保安林単位区域ごとの総年伐面積の範囲内とします。））。その他の制限林は、その制限の範囲内とします。制限林以外の森林にあっても、水源涵養機能、山地災害防止機能／土壌保全機能の維持増進を図るため、1箇所当たりの伐採面積は、おおむね5ha以下とします。ただし、分収造林等の契約に基づく森林は、契約内容によることとします（法令等の制限がある場合は、その制限の範囲内とします。））。

<3> 伐採箇所は、自然的条件及び公益的機能の確保についての必要性を踏まえ、伐採面積の規模、伐採箇所の分散に配慮するとともに新生林分の保護、寒風害等の各種被害の防止及び風致の維持等のため、主要な尾根、斜面中腹、溪流沿い、主要道沿線等に保護樹帯を積極的に設置します。特に水源涵養機能、山地災害防止機能／土壌保全機能の維持増進を図る森林については、天然生広葉樹の育成等による針広混交林への誘導や林分のモザイク的配置を考慮します。また新生林分に接続して皆伐を行う場合は、原則として隣接の新生林分がおおむねうっ閉した後に行います。

なお、皆伐新植を予定する林分において、利用径級に達しない小径木の有用樹種で形質の優れているものが生育している場合は、伐採せずに残すように努めます。

<4> 人工造林による育成複層林施業を行う場合は、効率的に施業を実施するため、帯状又は群状伐採を基本としますが、立地条件、下層木の生育状況等の現地の実態に応じて単木伐採も行います。

複層伐（更新伐）は原則としてスギ、ヒノキともおおむね60年生の時期に行い、複層伐（終伐）はおおむね120年生の時期に行います。

複層伐（更新伐）の伐採率は、上木の50%を基準とします。また、更新伐を実施する10年程度前までに間伐を実施し、必要な密度管理を行います。

<5> 積雪量100～250cmの多雪地帯では、傾斜の変換点、局所的急峻地、岩石地、風衝地、雪崩箇所、崩壊地の周辺、雪庇発生箇所の立木は伐採せずに残しますが、利用価値の高いものは択伐します。

<6> 上記多雪地帯で、積雪の葡行力による植栽木の引き抜けや倒伏等の被害が予想される箇所においては、必要に応じて防雪帯を設けます。

防雪帯は、斜面長40m以上の箇所においておおむね40mごとに幅20m程度としますが、できるだけ傾斜の変換点を選び、集材方法、地形などを勘案して

防雪効果が効果的に確保できるよう設けます。なお、搬出上支障となる立木はなるべく1 m以上の高さで伐倒し、防雪効果の維持に努めます。

〈7〉 林産物の搬出に当たっては、地形等の条件に応じて路網又は架線を適切に選択することとします。特に、地形、地質等の条件が悪く、土砂の流出又は崩壊を引き起こすおそれがあり、森林の更新や森林の土地の保全に支障を生じる場所においては、地表を極力損傷しないよう、路網の作設を避け、架線によることとするなど十分配慮し、搬出方法を決定します。

やむを得ず路網又は架線集材のための土場の作設が必要な場合には、法面を丸太組みで支えるなどの対策を講じます。

(b) 公有林野等官行造林地

公有林野等官行造林地の伐採は、制限林にあつてはその制限内容に従って行います。林産物の搬出は前項(a)に準じて行います。

(イ) 皆伐天然更新を行う森林

a 対象森林

皆伐天然更新は、アカマツ等の森林であつて天然下種による更新が確実な林分及びクヌギ、コナラ等の森林であつて、ぼう芽による更新が確実な林分において行います。

b 伐区の形状その他立木の伐採に関する留意事項

伐区の面積は皆伐新植に準ずるとともに、特に確実な更新を期するため、伐区の形状、母樹の保残等について配慮するとともに、伐採は、天然生稚樹の生育状況及び種子の結実状況等を勘案し、適切な時期を選定して行います。

イ 択伐を行う森林

択伐を行う林分は、各種法令等により伐採の方法を択伐と指定された林分であつて、択伐によって良好な天然下種更新が確実に図られる林分において行います。

伐採に当たっては、樹種構成、林木の生長、生産材の期待径級等を勘案するとともに、森林生産力の増進が図られる適正な林型に誘導するよう配慮して択伐率等を適切に定めます。林産物の搬出は前項アに準じて行います。

(2) 立木の標準伐期齢

主要樹種について、平均成長量が最大となる年齢を基準とし、森林の有する公益的機能、既往の平均伐採齢及び森林の構成を勘案して次表のとおり定めます。

単位：年

地 区	樹 種				
	スギ	ヒノキ	マツ	ブナ・ナラ	その他広葉樹
全 域	40	45	40	65	25

(3) その他必要な事項

主伐の時期については、高齢級の人工林が急増すること等を踏まえ、公益的機能の発揮との調和に配慮しつつ、木材等資源の安定的かつ効率的な循環・利用を考慮して、多様化を図ります。

また、歴史を未来につなぐ森林づくりとして、歴史的木造建築物の修復資材の供給や資源となる森林の育成に取り組みます。

2 造林に関する事項

(1) 人工造林に関する基本的事項

人工造林については、植栽によらなければ適確な更新が困難な森林や公益的機能の発揮の必要性から植栽を行うことが適当である森林のほか、木材等生産機能の発揮が期待され、将来にわたり育成単層林として維持する森林において行います。

更新に当たっては、花粉の少ない森林への転換を図るため、花粉症対策に資する苗木の植栽等に努めます。

また、効率的な施業実施の観点から、コンテナ苗の活用や伐採と造林の一貫作業システムの導入に努めます。

ア 人工造林の対象樹種

人工造林における造林すべき樹種は、土壌、地形等の自然条件を適確に把握した上で、適地適木を原則とし、立地条件、地域における造林種苗の需給動向及び木材の利用状況等を勘案し、スギ、ヒノキ、ケヤキ、クヌギ等の有用広葉樹の中から最も適合した樹種を選定します。複層林にあつては、原則としてスギ又はヒノキとします。

イ 人工造林の標準的な方法

スギ、ヒノキともヘクタール当たり 2,000 本を標準とします。複層林にあつては、群状又は帯状伐採区は、ヘクタール当たり 2,000 本を、単木伐採は、ヘクタール当たり 1,000 本を標準とします。

なお、苗木の選定については、コンテナ苗、成長に優れたエリートツリー（第2世代精英樹等）等の苗木、少花粉スギ等の花粉症対策に資する苗木の使用に努めます。

地ごしらえは、地力維持に配慮し、植生、地形、気象等の立地条件と、末木枝条の残存状況、植栽本数等に応じた適切な方法を採用します。植栽木とともに生育が期待できる天然生稚幼樹は刈り払わずに残します。

ウ 伐採跡地の人工造林をすべき期間

伐採跡地の更新をすべき期間は、公益的機能の維持や早期回復を図るため、人工造林によるものについては原則として2年以内とします。なお、伐採と造林を一貫して行う作業システムの導入に努めます。

(2) 天然更新に関する基本的事項

天然更新については、前生稚樹の生育状況、母樹の存在など森林の現況、気候、地形、土壌等の自然的条件、林業技術体系等からみて、主として天然力の活用により適確な更新が図られる森林において行います。

ア 天然更新の対象樹種

天然更新に係る補助作業の対象樹種は、既往の天然生有用広葉樹種の造林成績及び林産物の需要動向を勘案し、ヒノキ、アカマツ、ケヤキ、ミズメ、クヌギ、コナラ等とします。

イ 天然更新の標準的な方法

(ア) アカマツ

アカマツは原則として天然更新によることとし、アカマツの生態的適地で、かつアカマツが現存し、植生状態等の立地条件から天然更新による成林が可能な箇所を選定し、母樹の保残に努め、伐採前の地ごしらえを行います。

天然更新補助作業は現地の実態に応じて必要な植込み、まき付けを行うほか、必要な稚樹の刈り出しを行います。

(イ) 広葉樹

伐採面積、母樹保残、側方天然下種における伐区の形状等を十分検討し、確実な稚樹の発生に必要な伐採方法を選定します。なお、発生した稚樹が少ない場合には天然更新補助作業として刈り出し等を行います。

有用広葉樹については、地理的条件、土壌条件等から、広葉樹の適地を対象としてぼう芽による更新を図るため、天然更新補助作業として芽かき、刈り出し等を行います。

また、期間を定めて更新状況を確認し、更新が完了していないと判断される場合には、植栽等により確実に更新を図ります。

(3) その他必要な事項

材質が堅く成長が早い早生樹について、関係機関との連携も図りつつ、試験植栽を行い技術開発を計画的に進めます。

3 間伐及び保育に関する事項

健全な森林の育成による二酸化炭素の吸収目標の達成及び多様な森林への誘導に必要な間伐や保育を適確に実施します。

なお、実施に当たっては、森林施業の効率化・低コスト化を推進するための技術の普及及び定着に留意します。

(1) 間伐の標準的な方法

林分の健全化、林木の形質の向上等を図ることを目的として、林木の競合状態に応じて間伐を実施します。

実施時期は、樹冠がうっ閉したことにより、下層植生の一部が消失している若しくは消失するおそれのある場合又は林木相互間に競合による優劣が生じた時期とします。

保育間伐等定性間伐の選木については、間伐後の林木の質的向上と林分の健全性の保持を目的に、主として形質良好な上中層の林木を保残することとし、それ以外の形質不良木や形質良好であっても保残木の成長に影響する上層木等も選木します。

利用間伐に当たっては、選木作業の簡素化や効率的に間伐を実施するため、立木の生育状況や立地条件等を考慮の上、列状間伐を実施します。

間伐率は、35%（材積率）を上限とし、現地の実態に応じて決定します。

(2) 保育の標準的な方法

更新の完了後、育成しようとする樹木の成長を助け、健全な森林を育成するため、下刈り、除伐、鳥獣害防止対策等の作業を行います。

ア 下刈り

目的樹種の成長を阻害する草本植物等を除去し、目的樹種の健全な育成を図るため、特に作業の省力化・効率化にも配慮しつつ、局地的気象条件、植生の繁茂状況等に応じた適切な時期に、適切な作業方法により行います。また、その実施時期については、目的樹種の生育状況、植生の種類及び植生高により判断します。

イ 除伐

下刈りの終了後、林冠がうっ閉する前の森林において、目的樹種の成長を阻害する樹木等を除去し、目的樹種の健全な成長を図るため、森林の状況に応じて適時適切に行います。また、目的外樹種であっても、その生育状況や将来の利用価値を勘案し、有用なものは、保残し育成します。

ウ 鳥獣害防止対策

目的樹種の成長を阻害する野生鳥獣による被害を防除するため、地域における森林被害や生息状況等を勘案しつつ、施業と一体的に行う防護柵等の鳥獣害防止施設等の整備や捕獲等を行います。

なお、植栽木等への被害が見込まれる場合は、植栽木等がニホンジカによる食害を防

止できる樹高になるまで、有効な方法を実施します。

樹種	作業種	経過年数 (年)															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
スギ ヒノキ	下刈り	←							→								
	除伐										←						→
	鳥獣害 防止対策	←															

注：この表は、目安を示したものであり、実施に当たっては画一性を排除し、必要に応じて行います。複層林の下木の保育についても、表に準じて実施します。

(3) その他必要な事項

その他つる切り等の保育については、必要に応じて行います。

4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項

(1) 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における森林施業の方法

公益的機能別施業森林の区域及び施業方法については別表1のとおり定めます。

ア 公益的機能別施業森林の区域

(ア) 水源の涵養^{かん}の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

水源涵養^{かん}機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、当該区域に係る地域の要請等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせて定めます。ただし、狭小な区域を定めることに特別な意義を有する治山事業施工地等については例外的に単独で区分します。

(イ) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

a 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

山地災害防止機能、土壌保全機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、当該区域にかかる地域の要請等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせます。ただし、狭小な区域を定めることに特別な意義を有する治山事業施工地については例外的に単独で区分します。

b 快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

快適環境形成機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、地域住民の意向等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせます。

- c 保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

保健・レクリエーション機能又は文化機能の高度発揮が定められている森林について、森林の位置及び構成、地域住民の意向等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせませす。ただし、狭小な区域を単位として定めることに特別な意義を有する保護林、レクリエーションの森等については例外的に単独で区分します。

イ 公益的機能別施業森林区域内における施業の方法

天然生林については、公益的機能発揮の持続的な維持・管理を必要とする森林を除き手を加えません。他の施業については次のとおりです。

- (ア) 水源の涵養^{かん}の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

当該区域内における施業の方法は、伐期の間隔の拡大とともに伐採面積の縮小・分散を図ることを基本とし、下層植生の維持（育成複層林にあつては、下層木の適確な生育。）を図りつつ、根系の発達を確保します。

具体的には、立地条件に応じて長伐期施業、択伐による複層林施業、複層林施業（択伐によるものを除く。）を積極的に推進します。

- (イ) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

- a 土地に関する災害の防止及び土壌の保全機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

原則的に択伐による複層林施業を積極的に推進するほか、立地条件や国民のニーズに応じ、天然性広葉樹の育成等による針広混交の育成複層林への誘導を図ります。

- b 快適な環境の形成機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

皆伐をしないことを前提として、立地条件や国民のニーズ等に応じ、森林構成の維持を基本とした択伐による複層林施業を継続的に実施するほか、求められる効果に最も適合した森林の姿になるよう、樹種の選定や立木の密度等に配慮した更新、下枝の着生状態や葉量の保持等に配慮した保育、間伐等を積極的に行います。

- c 保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

郷土樹種を主体とした花木や広葉樹との混交も考慮に入れ、択伐による複層林施業を行います。

(2) その他必要な事項

森林レクリエーション施設と一体となった広葉樹林等美しく快適な森林空間を創出するほか、地域住民と都市住民との連携による国民に開かれた里山林等の整備を推進します。

また、歴史的木造建築物等の周辺の森林については、それらの建物と一体となった森林環境の保全・造成を推進します。

5 林道等の開設その他林産物の搬出に関する事項

(1) 林道等の開設及び改良に関する基本的な考え方

林道等路網の開設については、傾斜等の自然条件、事業量のまとまり等地域の特性に応じて、環境負荷の低減に配慮し、木材の搬出や多様な森林への誘導等に必要な森林施業を効果的かつ効率的に実施するため、一般車両の走行を想定する「林道」、主として森林施業用の車両の走行を想定する「林業専用道」、集材や造材等の作業を行う林業機械の走行を想定する「森林作業道」からなる路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システムに対応したものとします。その際、(2)の効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準を目安として林道（林業専用道を含む。以下同じ。）及び森林作業道を適切に組み合わせて整備（既設路網の改良を含む。）します。

また、林道の整備については、自然条件や社会的条件が良く、将来にわたり育成単層林として維持する森林等を主体に、効率的な森林施業や木材の大量輸送等への対応の視点を踏まえて整備を加速化させるなど、森林施業の優先順位に応じた整備を推進します。特に、林道の開設に当たっては、森林の利用形態や地形・地質等に応じ林業専用道を導入するなど、丈夫で簡易な規格・構造を柔軟に選択します。

開設する林道の路線配置、規格、構造等の基本的な考え方については、発揮すべき機能を踏まえた森林ごとに、以下のとおりとします。

ア 水源涵養機能、山地災害防止機能／土壤保全機能

水源涵養機能、山地災害防止機能／土壤保全機能の維持向上のため積極的な施業を実施すべき森林においては、林道の開設に伴う土砂の流出や崩壊を起こさないことを基本的に、線形、規格を選定し必要な路網を整備します。ただし、山地災害の危険性が高い地域については、新たな林道等の開設を回避する等特段の配慮をします。

また、既路線においては、路面の洗掘等による土砂の流出が起こらないよう施設の整備を行います。

イ 快適環境形成機能、保健・レクリエーション機能、文化機能、生物多様性保全機能

保健・レクリエーション機能の発揮を求められる森林において、森林へのアクセス等に必要路網の整備を行う場合には、林道については利用者の利便性等の確保の観点に加え、森林作業道や歩道も含め景観や生態系の保全に配慮した線形、構造及び施設を選択します。

また、快適環境形成機能、文化機能、生物多様性保全機能の発揮を求められる森林等景観や生態系の保全が特に求められる森林については、新たな林道の開設を回避する等、森林の管理上必要最小限の整備とします。

○基幹路網の現状

単位：延長 km

区 分	路 線 数	延 長
基幹路網	18	45
うち林業専用道	1	1

(2) 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムの基本的な考え方

路網と高性能林業機械を組み合わせた効率的な作業システムの普及・定着を図ることとし、繰り返しの間伐等継続的な施業が必要な育成単層林や育成複層林の対象地にあつては、低コストで効率的な作業システムに対応するため、下表を目安として林道及び森林作業道を整備するよう努めます。

○効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準

単位：m/ha

区 分	作業システム	路網密度	
			基幹路網
緩傾斜地（0°～15°）	車両系作業システム	100以上	35以上
中傾斜地（15°～30°）	車両系作業システム	75以上	25以上
	架線系作業システム	25以上	25以上
急傾斜地（30°～35°）	車両系作業システム	60以上	15以上
	架線系作業システム	15以上	15以上
急峻地（35°～）	架線系作業システム	5以上	5以上

※出典：林野庁「路網・作業システム検討委員会最終取りまとめ」

(3) 林産物の搬出方法等

林産物の搬出については、「主伐時における伐採・搬出指針」（令和3年3月16日付け2林整整第1157号林野庁長官通知）を踏まえ、適切な搬出方法を定めます。

(4) 更新を確保するため林産物の搬出方法を特定する森林の所在及びその搬出方法

該当ありません。

(5) その他必要な事項

土場、作業施設の整備に当たっては、気象、地形及び地質等の自然的条件、地域における土地利用及び森林の現況等を総合的に勘案し、整備箇所の選定を適切に行います。また、土砂の流出又は崩壊、水害等の災害の発生をもたらす、又は地域における水源の確保、環境の保全に支障を来すことのないよう、その態様等に応じ、法面の緑化、土留工等の防災施設及び貯水池等の設置並びに環境の保全等のための森林の適正な配置等適切な措置を講じます。

なお、林道等路網の整備については、民有林と連携を図りながら一体的・効率的に推進します。

6 森林施業の合理化に関する事項

(1) 林業に従事する者の養成及び確保に関する方針

長期にわたり持続的な経営を実現できる林業経営体の育成に当たっては、ICTを活用した生産管理手法の導入や事業量の安定的確保、生産性の向上など事業の合理化などによる経営基盤や経営力の強化とともに、これを通じた林業従事者の所得や労働環境の向上が課題となっています。

このため、民有林関係者及び関係機関と一層連携を強化して、森林共同施業団地の設定等による事業量の確保、事業の計画的発注、広域就労の促進等により雇用の長期化・安定化を図るとともに、技術研修等の実施及び研修フィールドの提供等を通じ、林業機械化の促進や稼働率の向上などに努めます。

さらに社会保険等への加入促進等就労条件の改善に関する指導の推進、労働安全衛生の確保、山村の生活基盤の整備等により、林業従事者の就労環境の改善を図ります。

(2) 作業システムの高度化に資する林業機械の導入の促進に関する方針

高性能林業機械の導入は、間伐の実施や多様な森林への誘導等に必要な森林施業の効果的かつ効率的な実施に不可欠なものであるとともに、稼働率及び労働生産性の向上、労働災害の減少、重筋労働からの解放による林業経営の合理化、林業事業体の体質強化及び林業労働者の確保を図る上で重要なポイントとなります。

このため、民有林関係者及び関係機関と一層連携を強化して、森林共同施業団地の設定等による事業量の確保及び路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムの普及・定着を推進するとともに、現地の作業条件に応じた作業システムを効率的に展開できる技術者の養成に寄与するよう努めます。0060

この場合、林業機械の導入に必要な路網の整備については、低コストで効率的な作業システムに対応し得るよう、林道、林業専用道、森林作業道を適切に組み合わせ、より効率的な森林施業のための路網への重点化を図ります。

(3) 林産物の利用促進のための施設の整備に関する方針

林産物の利用を促進するための施設の整備については、森林所有者等から木材製造業者等に至る木材の安定的取引関係の確立、施設・設備の大型化・高性能化、複数の中小工場の連携による生産の効率化、木材生産者や製材・合板工場、工務店等の連携による取組等による加工・流通コストの低減や供給ロットの拡大、地域における熱利用及び熱電併給等に向けた関係者の連携等を通じて、建築、土木、製紙、再生可能エネルギー等の多様な分野における需要者のニーズに即した品質及び強度性能の明確な木材製品を大量に安定的かつ低コストに供給し得る体制の整備を図るため、民有林と一体となって取組を推進します。

ア 木材の生産・流通の合理化

事業の発注見通し等を公表しつつ、民有林の関係者及び素材生産業者・流通業者と一体となって、森林計画区を単位とした計画的な木材生産や協調出材等により木材の産地・銘柄化を図るなど生産・流通の合理化に努めます。

イ 生産・流通・加工を通じた関係者の合意形成

広域原木流通協議会等を活用し、地域材の産地化などについて関係者の合意形成に努め、国有林及び民有林、川上から川下まで一体となった合理的な木材の生産・流通システムの確立を図ります。

ウ 国産材の安定供給体制の整備

森林吸収目標達成のために必要な間伐の適確な実施、国産材の利用拡大を軸とした林業及び木材産業の成長産業化に資するため、国有林と民有林関係者が連携して、間伐材の生産性向上を図るとともに、需要者ニーズに対応した国産材の安定供給体制の整備を強力に推進します。

(4) その他必要な事項

森林経営管理制度の導入により、民有林において、森林の経営管理を森林所有者自らが実行できない場合には、市町村が経営管理の委託を受け、林業経営に適した森林については意欲と能力のある林業経営体に再委託することとなっていることから、国有林としても、事業委託に際してはこうした林業経営体の受注機会の拡大に配慮するなど、意欲と能力のある林業経営体の育成に取り組むとともに、自ら森林経営を実施する市町村を支援するため、現地検討会の開催等を通じて森林・林業技術の普及や情報提供に取り組みます。

第4 森林の保全に関する事項

1 森林の土地の保全に関する事項

(1) 樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区

森林施業及び土地の形質変更に当たり、水源の^{かん}涵養、土砂の流出及び崩壊の防止上、特に林地保全に留意すべき森林は、水源かん養保安林、土砂流出防備保安林及び砂防指定地とします。

樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区は次のとおりです。

単位：ha

所 在		面 積	留意すべき事項
市 町 村	区 域		
敦 賀 市	109～165、205～210、283～289	4,755.19	林地の適正な管理及び適切な施業の実施により林地の保全を図るほか、土石・樹根の採掘、開墾、その他土地の形質変更にあたっては十分留意する。
小 浜 市	213～219	687.26	
おおい町	101～108、211、212、227～230、 268～270 ※風呂仁左衛門・早川明寛 1、2	1,429.91	
若 狭 町	220、221、271～274 ※若狭町 5 ※三宅生産森林組合 1、2	532.12	
計		7,404.48	

注：※は公有林野等官行造林地です。

(2) 森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を特定する必要のある森林及びその搬出方法

山地災害の発生により人命・施設への被害のおそれがあると認められ、かつ、急傾斜地にある又は地形等から森林作業道等の作設が不適切であることが明らかな森林については、「森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を特定する必要のある森林」として指定し、搬出の方法は原則として架線集材によることとします。

単位：ha

区 分		森林の所在	面 積	搬 出 方 法
総 数			37.58	
市町村別内訳	敦 賀 市	162 い、163 ち	37.41	架 線
	おおい町	212 い 1	0.17	架 線

(3) 土地の形質の変更に当たって留意すべき事項

土地の形質の変更に当たっては、調和のとれた快適な地域環境の整備を推進する観点に立って森林の適正な保全と利用との調整を図り、地域における飲用水等の水源として依存度の高い森林、良好な自然環境を形成する森林等、安全で潤いのある居住環境の保全、形成に重要な役割を果たしている森林の他用途への転用は極力避けます。

また、土石の切取り、盛土等を行う場合には、気象、地形、地質等の自然条件、地域における土地利用及び森林の現況並びに土地の形質変更の目的及び内容を総合的に勘案し、実施地区の選定を適切に行います。また、土砂の流出や崩壊、水害等の災害の発生をもたらす、又は地域における水源の確保、環境の保全に支障を来すことのないよう、その態様等に応じ、法面の緑化、土留工等の防災施設や貯水池等の設置、環境の保全等のための森林の適正な配置等の適切な措置を講じます。その際、太陽光発電施設の設置に当たり、太陽光パネルによる地表面の被覆により雨水の浸透能や景観に及ぼす影響が大きいことなどの特殊性を踏まえ、開発行為の許可基準の適正な運用を行うとともに、地域住民の理解を得る取組の実施などに配慮します。

(4) その他必要な事項

特に記すべき事項はありません。

2 保安施設に関する事項

(1) 保安林の整備に関する事項

保安林については、第2の1に定める「森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項」に則し、流域における森林に関する自然的条件、社会的要請及び保安林の配備状況等を踏まえ、水源のかん養、災害の防備、保健・風致の保存等の目的を達成するための保安林として指定する必要がある森林について、適切に保安林を配備するとともに、必要に応じて指定施業要件を見直し、適切な森林整備を実施することによりその保全を確保します。

(2) 保安施設地区に関する事項

保安林が指定されていない箇所、水源のかん養、土砂の流出防備、土砂の崩壊防備、飛砂の防備、風害、水害、潮害、干害、雪害又は霧害の防備、なだれ又は落石の危険の防止、火災の防備の目的を達成するため、森林の造成事業若しくは維持に必要な事業を行う必要があれば、保安施設地区に指定します。

(3) 治山事業に関する事項

治山事業については、第2の1に定める「森林の整備及び保全の目標その他森林の整備

及び保全に関する基本的な事項」に則し、国民の安全・安心の確保を図る観点から、災害に強い地域づくりや水源地域の機能強化に向けて、近年、頻発する集中豪雨や地震等による大規模災害の発生のおそれが高まっていること及び山腹崩壊等に伴う流木災害が顕在化していることを踏まえ、山地災害による被害を防止・軽減する事前防災・減災の考え方に立ち実施します。具体的には、流域治水の取組と連携を図りつつ、緊急かつ計画的な実施を必要とする荒廃地等を対象として、植栽、本数調整伐等の保安林の整備及び溪間工、山腹工等の治山施設の整備を計画的に推進します。

また、流木対策としては、治山ダムの設置や根系等の発達を促す間伐等の森林整備、流木化して下流域へ被害を及ぼす可能性の高い流路部の立木の伐採等に取り組みます。

その中で、流域保全の観点からの関係機関との連携や、地域における避難体制の整備などのソフト対策との連携を通じた効果的な治山対策を講じます。その際、保安林の配備による伐採等に対する規制措置と治山事業の実施の一体的な運用、既存施設の長寿命化対策の推進を含めた総合的なコスト縮減に努めるとともに、現地の実情を踏まえ、必要に応じて、在来種を用いた植栽・緑化など生物多様性の保全に努めます。

(4) その他必要な事項

特に記すべき事項はありません。

3 鳥獣害の防止に関する事項

(1) 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止方針

ア 区域の設定

鳥獣害防止森林区域については別表2のとおり定めます。

イ 鳥獣害の防止の方法

森林の適確な更新及び造林木の確実な育成を図ることを旨として、地域の実情に応じて、対象鳥獣の別に、当該対象鳥獣による被害の防止に効果を有すると考えられる方法として、防護柵の設置及び維持管理、幼齢木保護具の設置、剥皮防止帯の設置等の植栽木の保護措置、現地調査等による森林のモニタリングの実施、わな捕獲（囲いわな、くくりわな、箱わな等によるものをいう。）、安全体制が確保された場合の銃による捕獲等による鳥獣害防止対策を推進します。

保護林においては、上記に準じた鳥獣害防止対策を推進します。

その際、関係行政機関等と連携した対策を推進することとし、鳥獣保護管理施策や農業被害対策等との連携・調整に努めます。

(2) その他必要な事項

特に記すべき事項はありません。

4 森林病害虫の駆除及び予防その他の森林の保護に関する事項

(1) 森林病害虫等の被害対策の方針

病害虫等による被害の未然防止、早期発見及び早期駆除に努めます。特に、松くい虫による被害については、被害抑制のための健全な松林の整備と防除対策の重点化、地域の自主的な防除活動等の一層の推進を図るとともに、被害の状況等に応じ、被害跡地の復旧及び抵抗性を有するマツ又は他の樹種への計画的な転換の推進を図ります。なお、抵抗性を有するマツの転換に当たっては、気候、土壌等の自然的条件に適合したものを導入します。

また、ナラ枯れ被害についても、被害監視から防除実行までの地域の体制づくり、新たな技術の導入も含めた適切な防除を推進するとともに、里山等における広葉樹林の整備を通じた被害の未然防止を図ります。

(2) 鳥獣害対策の方針（3に掲げる事項を除く。）

3(1)アにおいて定める対象鳥獣以外の鳥獣による森林被害及び鳥獣害防止森林区域外における対象鳥獣による森林被害について、地域の森林資源の構成、被害の動向を踏まえ、必要に応じて、3(1)イに準じた鳥獣害防止対策を推進します。

特に、野生鳥獣による被害が深刻な森林については、その区域等を明確化して鳥獣害防止対策を推進します。

また、野生鳥獣との共存にも配慮した針広混交林の育成複層林の整備、野生鳥獣と地域住民の棲み分けに配慮した緩衝帯の整備等を推進します。

(3) 林野火災の予防の方針

山火事等の森林被害を未然に防止するため、林内歩道等の整備を図りつつ、森林巡視、山火事警防等を適時適切に実施するとともに、防火線、防火樹帯等の整備を推進します。

(4) その他必要な事項

山火事、病虫害、鳥獣害、風水害等の早期発見に重点を置くとともに、森林管理にも配慮した林野巡視に努めます。

また、森林の保護管理等を推進するため、地域の要望に基づく保安施設の整備や、啓発用の標識の設置等に努めます。

第5 計画量等

1 伐採立木材積

単位：千m³

区 分	総 数			主 伐			間 伐		
	総 数	針葉樹	広葉樹	総 数	針葉樹	広葉樹	総 数	針葉樹	広葉樹
総 数	113	108	5	29	24	5	84	84	—
前半5カ年の計画量	(4) 50	50	0	8	8	0	42	42	—

注：1 ()は外書で、地域管理経営計画等においてあらかじめ伐採箇所が特定できない臨時伐採量です。

2 四捨五入により総数と内訳が合わないことがあります。

2 間伐面積

単位：ha

区 分	間 伐 面 積
総 数	852
前半5カ年の計画量	429

3 人工造林及び天然更新別の造林面積

単位：ha

区 分	人 工 造 林	天 然 更 新
総 数	44	29
前半5カ年の計画量	20	—

4 林道の開設又は拡張に関する計画

単位：延長 km、面積 ha

開設 拡張 別	種類	区分	位置 市町村	路線名	延長 及び 箇所数	利用 区域 面積	前半 5カ 年の 計画 箇所	対図 番号	備考
開設	自動車道	林業 専用 道	敦賀市	アラ谷 林業専用道	(1)3.70	127		①	
				計	(1)3.70				
拡張	自動車道	林道	敦賀市	黒河林道 アシ谷支線	(2)0.03		○	②	
			おおい町	一ツ谷林道	(3)0.04		○	③	
			計	(5)0.07					

注：（ ）は箇所数です。

5 保安林整備及び治山事業に関する計画

(1) 保安林として管理すべき森林の種類別面積等

① 保安林として管理すべき森林の種類別の計画期末面積

単位：ha

保安林の種類	面積	前半5カ 年の 計画面積	備考
		保安林総数（実面積）	
水源かん養のための保安林	7,256	7,256	
災害防備のための保安林	144	144	
保健、風致の保存のための保安林	48	48	

注：総数欄は、2以上の目的を達成するために指定される保安林があるため、水源かん養のための保安林等の内訳の合計に一致しないことがあります。

② 計画期間内において保安林の指定又は解除を相当とする森林の種類別の所在及び面積等

単位：ha

指定 / 解除	種 類	森 林 の 所 在		面 積	前 半 5 年 の 計 画 面 積	指定又は解除を必要 とする理由	備 考
		市 町 村	区 域				
解除	水源かん養 保安林	敦賀市	154、155	1	1	再生可能エネルギー 発電用施設建設のため	

③ 計画期間内において指定施業要件の整備を相当とする森林の面積
該当ありません。

(2) 保安施設地区として指定することを相当とする土地の所在及び面積等
該当ありません。

(3) 実施すべき治山事業の数量

単位：地区

森林の所在		治山事業 施工 区域数	前半5ヵ年 の計画	主な工種	備考
市町村	区域				
敦賀市	109、110、112、114、115、 118、125、126、129、132、 153、156、157、161、163、 283、284、286	18	8	山腹工、 溪間工	
	151、157、159、161～164、 171、209、210、285、288、 289	13	10	本数調整伐	前期：98.41ha 後期：3.88ha
	小計	29	16		
小浜市	216	1	—	溪間工	
	213、216～218	4	1	本数調整伐	前期：2.92ha 後期：9.51ha
	小計	4	1		
おおい町	104～106、227、230	5	1	山腹工、 溪間工	
	101～108、211、212、227、 228、230、268、269	15	8	本数調整伐	前期：101.05ha 後期：77.45ha
	小計	15	8		
若狭町	221	1	1	山腹工、 溪間工	
	220、221、271	3	1	本数調整伐	前期：11.91ha 後期：0.48ha
	小計	3	2		
合計		51	27		

第6 その他必要な事項

○ 保安林その他法令により施業について制限を受けている森林の施業方法

(1) 法令により施業について制限を受けている森林

単位：ha

種類	森林の所在		面積	備考
	市町村	区域		
水源かん養 保安林	敦賀市	109～160、162～164、205～210、 283～289	4,617.69	
	小浜市	213～219	684.99	
	おおい町	101～108、211、212、227～230、 268～270 ※風呂仁左衛門・早川明寛 1、2	1,424.12	
	若狭町	220、221、271～274 ※若狭町 5 ※三宅生産森林組合 1、2	530.48	
土砂流出防備 保安林	敦賀市	161～163、165	115.52	
潮害防備保安林	敦賀市	171	28.48	
保健保安林	敦賀市	165、171	48.12	
砂防指定地	敦賀市	109、286、287	2.91	
	小浜市	216～218	28.72	
	おおい町	212、268、270	10.97	
	若狭町	220	0.91	
国定公園 第1種特別地域	敦賀市	171	26.73	
特別母樹林	敦賀市	127	3.96	
史跡名勝 天然記念物	敦賀市	171	28.52	
	おおい町	227、228	4.00	

注：※は、公有林野等官行造林地です。

(2) 制限林の施業方法

森林法、その他法令等により森林施業に制限のある森林は、それら法令等の目的達成に支障を及ぼさない範囲内で森林施業を行い、その種類ごとの伐採方法、更新方法及びその他施業に係る一般的事項は、次のとおりとします。

ア 保安林

(ア) 伐採方法

a 主伐

(a) 伐採種

それぞれの保安林の指定施業要件に定める伐採種によることとします。

(b) 伐採することのできる立木の年齢

樹種別に本計画に定めた標準伐期齢以上とします。

(c) 皆伐する場合の制限

伐採年度当たりの皆伐面積の限度は、保安林単位区域ごとの総年伐面積の範囲内とし、伐採年度ごとに皆伐することのできる一箇所当たりの面積は、それぞれの保安林の指定施業要件に定める面積以内とします。

(d) 択伐する場合の制限

伐採年度ごとに択伐することのできる立木の材積は、当該伐採年度の初日におけるその森林の立木の材積に、それぞれの保安林の指定施業要件に定められた択伐率を乗じて算出した材積以内とします。

b 間伐

(a) 間伐することのできる箇所は、樹冠疎密度が10分の8以上の箇所とします。

(b) 間伐することのできる材積は、それぞれの保安林の指定施業要件に定められた伐採率により算出した材積以内とします。

なお、伐採により樹冠疎密度が10分の8を下がったとしても、当該伐採年度の翌伐採年度の初日から起算しておおむね5年後に当該樹冠疎密度が10分の8以上に回復することが確実であると認められる範囲内の材積とします。

(イ) 更新

保安林の指定施業要件に植栽の指定がある場合は、植栽の方法、植栽期間、植栽樹種についてそれぞれ定められた内容の施業を行います。

イ 砂防指定地に係る森林

県知事の定める砂防指定地管理規則等の範囲内で施業を行います。

ウ 自然公園特別地域内の森林

第1種特別地域

(ア) 第1種特別地域の森林は禁伐とします。ただし、風致維持に支障のない限り、単木択伐法を行うことができます。

- (イ) 単木択伐法は次により行います。
 - a 伐期齢は、標準伐期齢に見合う年齢に10年以上を加えて決定します。
 - b 択伐率は現在蓄積の10%以内とします。

エ 特別母樹又は特別母樹林に係る森林

伐採は原則として禁伐とします。なお、その指定目的を阻害するおそれがないものとして農林水産大臣の許可があれば伐採することができます。

オ 史跡名勝天然記念物に係る森林及び史跡名勝天然記念物保存のための地域内の森林

- (ア) 伐採は、原則として禁伐とします。ただし、やむを得ない場合は文化財保護法又は県等の定める文化財保護条例等に基づき、指定物件の景観を損なわないよう配慮して伐採することができます。
- (イ) 更新は、原則として現在樹種の天然更新とします。

別表 1 公益的機能別施業森林の区域及び施業方法

1 水源の涵養^{かん}の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位：ha

区 分	森林の区域	面 積	施業方法
総 数		7,363.61	
市 町 村 別 内 訳	敦 賀 市	109～165、171、205～210、 283～289	長伐期施業、 複層林施業（択伐）
	小 浜 市	213～219	
	おおい町	101～108、211、212、 227～230、268～270	
	若 狭 町	220、221、271～274	

2 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

(1) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位：ha

区 分	森林の区域	面 積	施業方法
総 数		2,581.07	
市 町 村 別 内 訳	敦 賀 市	109、110、118、120～125、 129、132～134、137、 144～147、159～164、 205～210、283～288	複層林施業（択伐）
	小 浜 市	213～218	
	おおい町	101、108、212、268～270	
	若 狭 町	220、221、271～274	

(2) 快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

該当ありません。

(3) 保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位：ha

区 分		森林の区域	面 積	施業方法
総 数			792.19	
市 町 村 別 内 訳	敦 賀 市	112、114～117、122、125、 127～131、135～137、139、 141、143、149～151、 153～157、162、163、165、 171、208、283、284	747.60	複層林施業（択伐）
	おおい町	227、228	44.59	

別表2 鳥獣害防止森林区域

単位：ha

区 分		対象鳥獣の種類	森林の区域	面 積
総 数				7,389.92
市 町 村 別 内 訳	敦 賀 市	ニホンジカ	109～164、205～210、283～289	4,736.47
	小 浜 市	ニホンジカ	213～219	687.26
	おおい町	ニホンジカ	101～108、211、212、227～230、 268～270 ※風呂仁左衛門・早川明寛 1、2	1,434.07
	若 狭 町	ニホンジカ	220、221、271～274 ※若狭町 5 ※三宅生産森林組合 1、2	532.12

注：※は、公有林野等官行造林地です。

(附) 参 考 资 料

1 森林計画区の概要

(1) 市町村別土地面積及び森林面積

単位：面積 ha、比率 %

区 分	区域面積 ①	森 林 面 積			森林比率 ②/①×100	
		総数②	国有林	民有林		
総 数	109,994	87,437	7,515	79,922	79.5	
市 町 別 内 訳	敦 賀 市	25,141	19,937	4,795	15,142	79.3
	美 浜 町	15,235	12,575	7	12,569	82.5
	若 狭 町	17,848	11,854	562	11,292	66.4
	小 浜 市	23,311	19,030	706	18,325	81.6
	お お い 町	21,219	18,704	1,438	17,266	88.1
	高 浜 町	7,240	5,337	8	5,329	73.7

- 注：1 区域面積は福井県政策情報課「令和3年度市町勢要覧」（令和3年10月1日現在）によります。
 国有林面積（林野庁所管、官行造林）：福井森林管理署（令和2年3月31日現在）によります。
 （林野庁所管外）：福井県森づくり課（令和2年3月31日現在）によります。
 民有林面積：福井県森づくり課（令和4年3月31日現在）によります。
 2 四捨五入により総数と内訳の計が一致しないことがあります。

(2) 地況

ア 気候

単位：年間降水量 mm、最高積雪量 cm

観測地	気 温 （ ℃ ）			年間降水量	最高積雪量	主風の方向	備 考
	最 高	最 低	年平均				
敦 賀	20.0	12.5	16.0	2,406	30	SSE	
美 浜	19.9	11.6	15.6	2,277	—	SE	
小 浜	20.0	11.1	15.3	2,018	31	NNW	

- 注：1 各数値は、福井地方気象台発行「福井県気象年報」によります。
 （平成29年から令和3年の5か年の平均）
 2 美浜観測地の積雪情報はありません。

イ 地勢

計画区は、野坂山地、三遠山地、若丹山地、青葉火山地、敦賀平野、三方低地、および小浜平野からなり、若狭湾に面し、東西に細長く、海岸線は典型的なリアス式海岸となっています。

野坂山地は、敦賀市から美浜町に至る栃の木断層間と鉢伏山、野坂岳、三十三間山等からなり、特にこの山地には南北方向の断層が十数本存在し、ブロック化した山地を形成しています。また、若狭湾に突出した敦賀半島は、ほぼ全域に花崗岩が露出し、半島北部ではその節理がよく発達しています。

三遠山地は、若狭町（旧三方町から旧上中町南部）、および小浜市の東部を含む三方断層と熊川断層に挟まれた三角形の範囲で、200mから300mと他の山地より低い急峻であり、造山機構末期の典型的な形態を呈しています。

若丹山地は、若狭町（旧上中町北部）の熊川断層以西から京都府境に沿って高浜町に至る山地で、百里ヶ岳、八ヶ峰、頭巾山等からなり、山地内部には多くの断層が縦横に存在しています。

青葉火山地は、高浜町西部に位置し、その中心を成すコニデ型の青葉山は“若狭富士”の愛称でも知られています。

敦賀平野は、敦賀湾の陥没の後、ここに注ぐ筧の川、黒河川、および井の口川等により形成された平野であり、それぞれが明瞭な扇状地を形成しています。

三方低地は、三方断層に沿う沈降低地、三方湖沿岸、耳川下流の小低地域であり、沈降によって作られた低地ですが、山麓にはその後の隆起による段丘地形もみられます。また、この低地にある三方五湖は、若狭湾のリアス式海岸とともに若狭湾国定公園のなかでもすぐれた景勝地となっています。

小浜平野は、熊川断層と三遠山地との間の低地です。ここを北川が流れ、河口近くでは西南の若丹山地から流れてきた南川とともに三角洲をつくり小浜湾に注いでいます。

ウ 地質、土壌等

・地 質

東部の敦賀市を中心に広がる花崗岩類とおおい町（旧名田庄村）を中心に広がる古生層、西部に分布する塩基性火成岩類、新第三紀層とに区分されます。東部の敦賀半島、黒河川流域、若狭町（旧三方町）周辺には中生代の黒雲母花崗岩が、また、鉢伏山付近は角閃石花崗岩が分布し、敦賀市の平野部は新生代第四紀沖積層から成りたっています。

・土 壌

市町村別森林土壌分布面積（民有林）

単位：面積 ha

土 壌 の 種 類		敦賀市	美浜町	若狭町	小浜市	おおい町	高浜町
土 壌 群	土 壌 型						
ポトゾル	乾性弱ポトゾル化土壌 PDⅢ型	—	11	—	—	11	—
褐 色 森 林 土	乾性褐色森林土 BA型	13	52	81	21	—	7
	乾性褐色森林土 BB型	2,208	2,158	2,740	4,667	4,164	1,184
	弱乾性褐色森林土 BC型	—	—	—	17	1	18
	適潤性褐色森林土 （偏乾亜型） BD(d)型	7,679	5,297	5,188	8,202	7,053	1,447
	適潤性褐色森林土 BD型	5,362	4,373	2,937	4,845	4,650	633
	弱湿性褐色森林土 BE型	35	34	—	—	32	—
赤黄色土	赤色土 R型	—	21	384	57	579	1,287
暗赤色土	暗赤色土 eDR型	—	—	—	—	426	183
未熟土	受蝕土 Er型	22	561	170	407	290	515
そ の 他	崩落地及び岩石地等	96	88	51	283	97	86
合 計		15,415	12,595	11,551	18,499	17,303	5,360

注：1 数値は、「福井県民有林適地適木調査説明書」（昭和53～54年度）によります。

2 面積の数値は、他表と一致しません。

(3) 土地利用の現況

単位：面積 ha

区 分	総 数	森 林	農 地			そ の 他		備 考	
			総 数	うち田	うち畑	総 数	うち宅地		
総 数	109,985	87,437	11,971	6,399	5,572	10,577	3,309		
市 町 別 内 訳	敦賀市	25,134	19,937	1,641	872	769	3,556	1,247	
	美浜町	15,234	12,575	1,610	838	772	1,049	283	
	若狭町	17,849	11,854	3,790	2,080	1,710	2,205	529	
	小浜市	23,309	19,030	2,720	1,420	1,300	1,559	652	
	おおい町	21,219	18,704	1,410	746	664	1,105	280	
	高浜町	7,240	5,337	800	443	357	1,103	319	

- 注：1 農地の数値は、「福井県統計年鑑（令和2年）」によります。
 2 宅地の数値は、県政策統計・情報課「令和3年度福井県市町勢要覧」によります。
 3 四捨五入により総数と内訳の計が一致しないことがあります。

(4) 産業別生産額

単位：金額 百万円

区 分	総生産額	第 1 次 産 業				第 2 次 産 業	第 3 次 産 業	備 考
		総額	農業	林業	水産業			
福 井 県	3,694,563	31,152	23,765	1,835	5,551	1,238,755	2,425,049	

- 注：1 福井県統計調査課「福井県民経済計算（令和元年度）」によります。
 2 総生産額は、輸入品に課される税・関税と控除項目である総資本形成に係る消費税を含むため、産業別県内総生産の計と一致しません。
 3 四捨五入により総数と内訳の計が一致しないことがあります。

(5) 産業別就業者数

単位：人数 人

区 分	総人口	就業人口	第 1 次 産 業				第 2 次 産 業	第 3 次 産 業	
			計	農 業	林 業	水産業			
総 数	131,485	71,405	3,453	2,392	666	395	19,351	49,159	
市 町 別 内 訳	敦賀市	63,050	33,686	520	435	12	73	9,485	23,681
	美浜町	8,904	4,996	332	239	6	87	1,085	3,579
	若狭町	13,467	7,329	1,222	611	593	18	1,939	4,726
	小浜市	28,372	15,257	625	522	19	84	4,194	10,438
	おおい町	7,706	4,341	386	287	31	68	1,096	2,859
	高浜町	9,986	5,796	368	298	5	65	1,552	3,876

注：数値は、福井県政策統計・情報課「令和2年国勢調査不詳補完値」によります。

2 森林の現況（国有林）

(1) 齢級別森林資源表

単位：面積 ha、材積 立木は千m³、材積 立竹は千束、成長量 千m³

区分	総数			1 齢級			2 齢級			3 齢級			4 齢級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	総数	7,438.93	1,105	13			1.29						17.58		1
	針	7,279.66	1,105	13			1.29						17.58		1
	広	2,637.02	578	8			1.29						10.95		1
総数	総数	4,642.64	527	6									6.63		
	針	2,017.66	450	8			1.29						16.83		1
	広	1,423.88	377	6			1.29						10.43		1
人工林	総数	593.78	73	1									6.40		
	針	2,017.66	450	8			1.29						16.83		1
	広	1,423.88	377	6			1.29						10.43		1
育成林	総数	593.78	73	1									6.40		
	針														
	広														
育成林	総数														
	針														
	広														
立木地	総数														
	針														
	広														
天然林	総数	5,262.00	654	6									0.75		
	針	1,213.14	201	1									0.52		
	広	4,048.86	453	4									0.23		
育成林	総数	1,524.49	227	2											
	針	746.31	120	1											
	広	778.18	107	1											
育成林	総数	14.95	5												
	針	4.34	2												
	広	10.61	2												
天然林	総数	3,722.56	423	4									0.75		
	針	462.49	79	1									0.52		
	広	3,260.07	344	3									0.23		
竹林															
無立木地		159.27													

注：1 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれません。

2 竹林の集計値については、総計欄には含まれません。

3 () は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

単位：面積 ha、材積 立木は千m³ 立竹は千束、成長量 千m³

区分	5 齢級			6 齢級			7 齢級			8 齢級			9 齢級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	33.59	3		17.87	1		45.27	6		121.92	19		218.57	49	
	33.59	3		17.87	1		45.27	6		121.92	19		218.57	49	
	29.03	2		9.02	1		28.54	5		67.15	16		127.72	40	
総数	4.56			8.85			16.73	1		54.77	4		90.85	9	
総数	30.31	2		11.43	1		36.77	6		85.75	18		179.47	45	
	29.03	2		9.02	1		28.54	5		66.87	16		122.60	39	
	1.28			2.41			8.23	1		18.88	2		56.87	6	
育層成林	30.31	2		11.43	1		36.77	6		85.75	18		179.47	45	
	29.03	2		9.02	1		28.54	5		66.87	16		122.60	39	
	1.28			2.41			8.23	1		18.88	2		56.87	6	
人工林															
育層成林															
総数	3.28			6.44			8.50			36.17	2		39.10	4	
										0.28			5.12	1	
	3.28			6.44			8.50			35.89	2		33.98	3	
育層成林															
天然生林	3.28			6.44			8.50			36.17	2		39.10	4	
										0.28			5.12	1	
	3.28			6.44			8.50			35.89	2		33.98	3	
竹林															
無立木地															

注：1 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれません。

2 竹林の集計値については、総計欄には含まれません。

3 () は、人工林の育成層林の上、中層木の面積で外書。

単位：面積 ha、材積 立木は千m³ 立竹は千束、成長量 千m³

区分	1 0 齡級			1 1 齡級			1 2 齡級			1 3 齡級			1 4 齡級			
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	
總數	總數	362.03	82	2	694.39	122	2	697.95	120	2	758.63	133	1	636.76	82	1
	針	362.03	82	2	694.39	122	2	697.95	120	2	758.63	133	1	636.76	82	1
	広	206.92	65	1	262.77	78	1	280.99	72	1	478.07	98	1	185.98	34	
總數	總數	155.11	18		431.62	44	1	416.96	47	1	280.56	34		450.78	48	1
	針	255.90	68	1	357.37	85	1	259.81	59	1	331.72	76	1	83.47	17	
	広	187.98	60	1	229.87	70	1	193.06	51	1	261.69	66	1	55.28	14	
育單層成林	總數	67.92	8		127.50	15		66.75	8		70.03	9		28.19	4	
	針	255.90	68	1	357.37	85	1	259.81	59	1	331.72	76	1	83.47	17	
	広	187.98	60	1	229.87	70	1	193.06	51	1	261.69	66	1	55.28	14	
人工林	總數	67.92	8		127.50	15		66.75	8		70.03	9		28.19	4	
	針															
	広															
育復層成林	總數															
	針															
	広															
總數	總數	106.13	14		337.02	37	1	438.14	61	1	426.91	57	1	553.29	65	1
	針	18.94	5		32.90	8		87.93	21		216.38	32		130.70	20	
	広	87.19	10		304.12	29		350.21	39	1	210.53	25		422.59	44	
育單層成林	總數	48.41	8		26.45	5		172.81	31		222.90	30		93.30	13	
	針	12.29	3		7.90	2		65.45	16		157.17	21		52.74	7	
	広	36.12	5		18.55	3		107.36	14		65.73	9		40.56	5	
育復層成林	總數															
	針															
	広															
天然生林	總數	57.72	6		310.57	31	1	265.33	30		189.06	22		459.99	52	
	針	6.65	2		25.00	6		22.48	5		54.87	8		77.96	13	
	広	51.07	5		285.57	25		242.85	25		134.19	14		382.03	39	
竹林																
無立木地																

注：1 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれません。

2 竹林の集計値については、総計欄には含まれません。

3 () は、人工林の育成復層林の上、中層木の面積で外書。

単位：面積 ha、材積 立木は千m³ 立竹は千束、成長量 千m³

区分	1 5 齡級			1 6 齡級			1 7 齡級			1 8 齡級			1 9 齡級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
總數	392.46	51		130.88	14		411.31	51		377.34	37		309.54	43	
	392.46	51		130.88	14		411.31	51		377.34	37		309.54	43	
	針	23		27.51	4		93.62	18		35.58	6		85.56	14	
広	282.02	29		103.37	10		317.69	33		341.76	31		223.98	29	
總數	64.86	14		8.53	2		48.99	10		27.75	5		20.07	6	
	42.77	11		6.13	2		26.07	8		17.27	4		12.57	4	
	針	3		2.40			22.92	3		10.48	1		7.50	2	
広	64.86	14		8.53	2		48.99	10		27.75	5		20.07	6	
育單層成林	42.77	11		6.13	2		26.07	8		17.27	4		12.57	4	
	針	3		2.40			22.92	3		10.48	1		7.50	2	
	広	42.77	11		6.13	2	26.07	8		17.27	4		12.57	4	
人工林	22.09	3		2.40			22.92	3		10.48	1		7.50	2	
	針														
	広														
育復層成林															
	針														
	広														
總數	327.60	37		122.35	12		362.32	41		349.59	32		289.47	37	
	67.67	11		21.38	3		67.55	10		18.31	2		72.99	10	
	針	26		100.97	10		294.77	31		331.28	29		216.48	27	
広	259.93	26		100.97	10		294.77	31		331.28	29		216.48	27	
育單層成林	36.85	6		30.12	2		160.04	19		7.32	1		96.93	12	
	針	4		9.04	1		51.52	7		6.58	1		43.25	5	
	広	13.06	2		21.08	1	108.52	11		0.74			53.68	6	
育復層成林															
	針														
	広														
天然生林	290.75	31		92.23	11		202.28	22		342.27	31		192.54	25	
	43.88	7		12.34	2		16.03	3		11.73	2		29.74	5	
	針	25		79.89	9		186.25	19		330.54	29		162.80	20	
広	246.87	25		79.89	9		186.25	19		330.54	29		162.80	20	
竹林															
無立木地															

注：1 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれません。

2 竹林の集計値については、総計欄には含まれません。

3 () は、人工林の育成復層林の上、中層木の面積で外書。

区分		20 齡級			21 齡級以上		
		面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	総数	204.08	40		1,848.20	251	1
	針	84.19	21		511.69	80	
	広	119.89	19		1,336.51	171	1
人工林	総数	71.46	15		125.88	19	
	針	42.06	10		81.35	13	
	広	29.40	5		44.53	6	
育単層成林	総数	71.46	15		125.88	19	
	針	42.06	10		81.35	13	
	広	29.40	5		44.53	6	
育複層成林	総数						
	針						
	広						
立木地	総数	132.62	24		1,722.32	231	1
	針	42.13	11		430.34	67	
	広	90.49	13		1,291.98	164	1
天然林	総数	17.18	3		612.18	98	1
	針	11.88	2		304.70	50	
	広	5.30	1		307.48	48	
竹林	総数						
	針						
	広						
無立木地	総数	115.44	22		1,110.14	133	1
	針	30.25	9		125.64	17	
	広	85.19	13		984.50	116	1

注：1 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれません。
 2 竹林の集計値については、総計欄には含まれません。
 3 () は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

(2) 制限林普通林別森林資源表

単位：面積 ha、材積 m³、成長量 m/年

区分	立木地										無立木地等					計									
	人工林					天然林					伐採跡地	未立木地	改植予定地	林地以外の地	計										
	育成単層林		育成複層林		計	育成単層林		育成複層林		計							竹林	計							
	針	広	針	広		針	広	針	広																
制限林	面積	針	1,423.32	592.63	2,015.95	377,303	73,097	450,400	746.31	4.34	10.61	462.12	3,256.75	1,212.77	2,636.09										
	材積	針	377,303	73,097	450,400	226,757	4,500	226,757	106,958	2,250	14.95	3,718.87	5,258.31	200,862	578,165	7,274.26	127.77	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	7,402.03		
	成長量	針	6,416.2	1,119.1	7,535.3	682.7	18.1	682.7	1,019.5	27.0	45.1	3,873.2	5,620.5	1,227.5	7,643.7	5,512.1								5,512.1	
普通林	面積	針	0.56	1.15	1.71							0.37	3.32	0.37	4.47										
	材積	針	23	27	50							174	224	50	174	201									73
	成長量	針	3.4	6.1	9.5							2.2	2.2	2.2	2.2	5.6									36.90
計	面積	針	1,423.88	593.78	2,017.66	377,326	73,124	450,450	746.31	4.34	10.61	462.49	3,260.07	1,213.14	2,637.02	4,642.64	159.27								7,438.93
	材積	針	377,326	73,124	450,450	226,757	4,500	226,757	106,958	2,250	14.95	3,722.56	5,262.00	200,912	578,238	7,279.66									7,438.93
	成長量	針	6,422.3	1,122.5	7,544.8	682.7	18.1	682.7	1,019.5	27.0	45.1	3,875.9	5,623.2	1,228.0	7,650.3	5,517.7									13,168.0

注：1 人工林及び天然林で点生木のみの林分の面積については、本表の集計には含まれません。

2 竹林の集計値については、立木地の計欄及び立木地と無立木地等の合計欄には含まれません。

(3) 市町村別森林資源表

市町村	区分	立木地										無立木地等				計									
		人工林					天然林					竹林	計	伐採跡地	未立木地		改訂地	林地以外の地	計						
		育成単層林		育成複層林		計	育成単層林		育成複層林		計									天然林					
		計	育成単層林	育成複層林	計	育成単層林	育成複層林	計																	
敦賀市	面積	針	770.79	770.79	697.78	378.35	1,076.13	1,846.92																	
		広	385.95	385.95	679.06	1,777.56	2,456.62	2,842.57																	
		計	1,156.74	1,156.74	1,376.84	2,155.91	3,532.75	4,689.49															95.99	4,785.48	
	材積	針	174.574	174.574	107.567	65.287	172.854	347.428																	
		広	47.360	47.360	92.863	184.581	277.444	324.804																	
		計	221.934	221.934	200.430	249.868	450.298	672.232																	
成長量	針	3,071.1	3,071.1	562.0	445.0	1,007.0	4,078.1																		
	広	695.7	695.7	813.9	1,904.6	2,718.5	3,414.2																		
	計	3,766.8	3,766.8	1,375.9	2,349.6	3,725.5	7,492.3																		
小浜市	面積	針	83.30	83.30		23.55	23.55	106.85																	
		広	27.48	27.48		542.61	542.61	570.09																	
		計	110.78	110.78		566.16	566.16	676.94																	
	材積	針	24.954	24.954		3.156	3.156	28.110																	
		広	4.611	4.611		61.893	61.893	66.504																	
		計	29.565	29.565		65.049	65.049	94.614																	
成長量	針	563.4	563.4		13.6	13.6	577.0																		
	広	68.5	68.5		501.9	501.9	570.4																		
	計	631.9	631.9		515.5	515.5	1,147.4																		
おおい町	面積	針	508.41	508.41	48.53	4.34	48.99	101.86																	
		広	149.67	149.67	99.12	10.61	525.28	635.01																	
		計	658.08	658.08	147.65	14.95	574.27	736.87																	
	材積	針	159.317	159.317	12.232	2.250	8.483	22.965																	
		広	17.779	17.779	14.095	2.250	55.563	71.908																	
		計	177.096	177.096	26.327	4.500	64.046	94.873																	
成長量	針	2,509.0	2,509.0	120.7	18.1	59.9	198.7																		
	広	306.6	306.6	205.6	27.0	594.7	827.3																		
	計	2,815.6	2,815.6	326.3	45.1	654.6	1,026.0																		
若狭町	面積	針	61.38	61.38		11.60	11.60	72.98																	
		広	30.68	30.68		414.62	414.62	445.30																	
		計	92.06	92.06		426.22	426.22	518.28																	
	材積	針	18.481	18.481		1.937	1.937	20.418																	
		広	3.374	3.374		42.162	42.162	45.536																	
		計	21.855	21.855		44.099	44.099	65.954																	
成長量	針	278.8	278.8		8.7	8.7	287.5																		
	広	51.7	51.7		347.5	347.5	399.2																		
	計	330.5	330.5		356.2	356.2	686.7																		

注: 1 人工林及び天然林で点生木のみ其林分の面積については、本表の集計には含まれません。
 2 複層林は下層木のみを対象とします。

単位：面積 ha、材積 m³、成長量 m³/年

市町村	区分	立木地										無立木地等				計				
		人工林					天然林					伐採跡地	未立木地	改訂地	林地以外の地					
		育成単層林	育成複層林	計	育成単層林	育成複層林	天然生林	計	竹林	計										
	面積	針	1,423.88		1,423.88	746.31	4.34	462.49	1,213.14			2,637.02								
		広	593.78		593.78	778.18	10.61	3,260.07	4,048.86			4,642.64								
		計	2,017.66		2,017.66	1,524.49	14.95	3,722.56	5,262.00			7,279.66			159.27					7,438.93
	材積	針	377,326		377,326	119,799	2,250	78,863	200,912			578,238								578,238
		広	73,124		73,124	106,958	2,250	344,199	453,407			526,531			1.00					526,532
		計	450,450		450,450	226,757	4,500	423,062	654,319			1,104,769			1.00					1,104,770
	成長量	針	6,422.3		6,422.3	682.7	18.1	527.2	1,228.0			7,650.3								7,650.3
		広	1,122.5		1,122.5	1,019.5	27.0	3,348.7	4,395.2			5,517.7								5,517.7
		計	7,544.8		7,544.8	1,702.2	45.1	3,875.9	5,623.2			13,168.0								13,168.0

注：1 人工林及び天然林で点生木のみ其林分の面積については、本表の集計には含まれません。

2 複層林は下層木のみを対象とします。

(4) 制限林の種類別面積

単位：面積 ha

区分	市町村				合計
	敦賀市	小浜市	おおい町	若狭町	
水源かん養保安林	4,617.69	684.99	1,424.12	530.48	7,257.28
土砂流出防備保安林	115.52				115.52
土砂崩壊防備保安林					
飛砂防備保安林					
防風保安林					
水害防備保安林	28.48				28.48
潮害防備保安林					
干害防備保安林					
防雪保安林					
防露保安林					
なだれ防止保安林					
落石防止保安林					
防火保安林					
魚つき保安林					
航行目標保安林					
保健保安林	(48.12)				(48.12)
風致保安林					
計	4,761.69	684.99	1,424.12	530.48	7,401.28
保安施設地区					
砂防指定地					
特別保護地区					
第一種特別地域	(2.40)	0.20	(10.97)	(0.91)	(42.80)
第二種特別地域					
第三種特別地域					
地種区分未定地域					
計					
特別保護地区					
第一種特別地域	(26.71)				(26.71)
第二種特別地域	0.02				0.02
第三種特別地域					
地種区分未定地域					
計	(26.71)				(26.71)
第一種特別地域					
第二種特別地域					
第三種特別地域					
地種区分未定地域					
計					
原生自然環境保全地域					
自然環境保全地域特別地区					
都道府県自然環境保全地域特別地区					
鳥獣保護区特別保護地区					
緑地保全地区					
風致地区					
特別母樹林	(3.96)				(3.96)
史跡名勝天然記念物	(28.50)		(4.00)		(32.50)
種の保存法による管理地区	0.02				0.02
その他					
合計	(109.69)	4,762.24	(14.97)	(0.91)	(154.09)
		(28.52)	1,424.12	530.48	7,402.03

注：（ ）は、指定が重複する制限林の面積で外書。

(5) 樹種別材積表

単位：材積 m³

樹種 林種	スギ	ヒノキ	アカマツ	クロマツ	その他 針葉樹
総数	354,781	82,777	119,010	20,900	770
人工林	290,492	53,497	20,183	12,384	770
天然林	64,289	29,280	98,827	8,516	—

樹種 林種	ブナ	クリ	カシ類	ナラ類	カンバ類
総数	50,106	2,658	2,893	45,873	1,416
人工林	1,985	—	—	819	1
天然林	48,121	2,658	2,893	45,054	1,415

樹種 林種	カエデ類	その他 広葉樹	計
総数	4,172	419,413	1,104,769
人工林	—	70,319	450,450
天然林	4,172	349,094	654,319

(6) 荒廃地等の面積

単位：面積 ha

区 分		荒 廃 地	荒廃危険地
総 数		10.43	0.82
市町別内訳	敦賀市	4.69	0.51
	小浜市	0.48	0.04
	若狭町	3.11	—
	おおい町	2.15	0.27

(7) 森林の被害

単位：面積 ha

種 類		松 く い 虫		
年 度		平成31年度	令和2年度	令和3年度
総 数		0.41	0.34	0.20
市町別内訳	敦 賀 市	0.41	0.34	0.20

種 類		カシノナガキクイムシ		
年 度		平成31年度	令和2年度	令和3年度
総 数		—	3.86	3.76
市町別内訳	敦 賀 市	—	3.82	3.76
	若 狭 町	—	0.04	—

種 類		ク マ		
年 度		平成31年度	令和2年度	令和3年度
総 数		—	—	0.13
市町別内訳	小 浜 市	—	—	0.13

(8) 防火線等の整備状況

該当ありません。

3 林業の動向

(1) 保有山林規模別林家数

単位：戸数 戸

区 分	総数	3ha 未満	3～5ha 未満	5～10ha 未満	10～50ha 未満	50ha 以上	備考
総 数	3,400	2,054	632	413	279	22	
市 町 別 内 訳	敦 賀 市	476	315	77	50	33	1
	美 浜 町	404	294	50	46	13	1
	若 狭 町	869	564	174	83	46	2
	小 浜 市	796	396	177	111	103	9
	おおい町	501	262	83	80	68	8
	高 浜 町	354	223	71	43	16	1

注：数値は、2020年農林業センサスによります。

(2) 森林経営計画の認定状況

単位：人数 人、面積 ha

区 分	総 数		公 有 林		私 有 林		備 考
	人数	面積	人数	面積	人数	面積	
総 数	1,442	12,099	6	2,731	1,436	9,368	
市 町 別 内 訳	敦 賀 市	119	2,070	1	995	118	1,076
	美 浜 町	25	1,001	1	405	24	596
	若 狭 町	331	1,557	1	65	330	1,491
	小 浜 市	349	1,991	1	367	348	1,624
	おおい町	426	4,484	1	806	425	3,678
	高 浜 町	192	996	1	93	191	903

注：1 平成29年度～令和3年度実績によります。

2 四捨五入により総数と内訳の計が一致しないことがあります。

3 人数は、述べ人数を記入しています。

4 知事認定は、記入していません。

5 みなし認定を新規認定した場合は、新規認定を記入しています。

(3) 森林組合の現況

ア 構成

単位：員数 人、金額 千円、面積 ha

市 町 別	組合名	組合員数	常勤役員数	出資金総数	組合員所有森林面積	備 考
総 数	1	8,325	22	248,643	55,977	
森 林 組 合	敦 賀 市	れいなん	8,325	22	248,643	55,977
	美 浜 町					
	若 狭 町					
	小 浜 市					
	おおい町					
	高 浜 町					

注：1 令和3年度（令和3年次）森林組合資料によります。

2 組合員所有森林面積は県産材活用課「令和2年度森林組合統計」によります。

イ 事業内容

区 分	指導部門 指導事業	販 売 部 門				加工部門 販売高	
		販売事業		林産事業			
		数 量 千円	販売高 m ³ 千円	数 量 m ³ 千円	販売高 千円		
森 林 組 合	総 数	0	0	2,473	5,430	41,930	18,375
	れいなん	0	0	2,473	5,430	41,930	18,375

区 分	指導部門 指導事業	森 林 整 備 部 門				
		購買事業			養苗事業	
		山行苗 千本	肥 料 kg	購買高 千円	数 量 千本	販売高 千円
森 林 組 合	総 数	0	3,230	8,711	—	—
	れいなん	0	3,230	8,711	—	—

区 分		森 林 整 備 部 門			
		森林整備事業			利用及び福 利厚生事業
		造林 ha	林道	金 額 千円	
森林 組合	総 数	—	—	306,979	226,800
	れいなん	—	—	306,979	226,800

注：1 数値は、福井県森づくり課「令和2年度森林組合統計」によります。

(調査時点：令和3年3月31日)

2 各事業の販売高及び金額は、各事業における合計です。

ウ 活動状況（作業班就業日数別作業数（実員数））

区 分		59日以下				60～149日				150～209日			
		伐 出	造 林	そ の 他	計	伐 出	造 林	そ の 他	計	伐 出	造 林	そ の 他	計
森林 組合	総 数	0	0	5	5	0	1	0	1	0	10	0	10
	れいなん	0	0	5	5	0	1	0	1	0	10	0	10

区 分		210日以上				計			
		伐 出	造 林	そ の 他	計	伐 出	造 林	そ の 他	計
森林 組合	総 数	8	24	2	34	8	35	7	50
	れいなん	8	24	2	34	8	35	7	50

注：数値は、福井県森づくり課「令和2年度森林組合統計」によります。

(調査時点：令和3年3月31日)

(4) 林業事業体の現況

単位：事業体数

区 分	造林業	素 材 生 産 業	木 材 ・ 木 製 品 製 造 業		備 考	
			製 造 業	そ の 他		
総 数	1	24	12	4		
市 町 別 内 訳	敦 賀 市	0	2	1	1	
	美 浜 町	0	3	2	0	
	若 狭 町	0	10	4	1	
	小 浜 市	1	4	4	1	林業事業体内数： 造林業1、素材生産業1
	おおい町	0	1	0	0	
	高 浜 町	0	4	1	1	林業事業体内数： 素材生産業1

- 注：1 数値は、福井県木材組合連合会が作成する福井県木材業者等登録者名簿（令和4年4月1日現在）及び福井県産材活用課資料の合算によります。
- 2 素材生産業および木材・木製品製造業の事業体数は、一部重複します。
- 3 木材・木製品製造業のその他欄は、チップ製造を行う事業体を指します。

(5) 林業労働力の概況

区分	総 数	市 町 別 内 訳						
		敦賀市	美浜町	若狭町	小浜市	おおい町	高浜町	
人 口	133,039	63,634	8,998	13,714	28,634	7,884	10,175	
世 帯 数	56,114	27,887	3,720	4,791	12,060	3,184	4,472	
総経営体数	57	12	3	5	7	29	1	
経営者・ 役員等の 林業経営 従事状況	1～29日	629	222	94	50	37	165	61
	30～59日	55	2	0	1	1	50	1
	60～149日	15	3	0	0	8	1	3
	150日以上	95	0	1	1	91	1	1
	計	794	227	95	52	137	217	66

- 注：1 人口、世帯数の数値は、福井県政策統計課「福井県の人口と世帯（推計）令和3年10月1日現在」によります。
- 2 総経営体数・林業経営従事状況は2020年農林業センサスによります。
- 3 経営者・役員等には世帯員が含まれます。

(6) 林業機械化の概況

単位：台

機械の種類	若狭森林計画区	備考
フェラーバンチャ	—	
スキッド	—	
プロセッサ	2	
ハーベスタ	2	
フォワーダ	7	
タワーヤーダ	—	
スイングヤーダ	3	
グラップルバケット	—	
その他の高性能林業機械	—	

注：福井県森づくり課「林業機械の保有状況調査」によります。（令和4年3月31日現在）

(7) 作業路網等の整備の概況

ア 国有林の現況

単位：m

区 分	林道延長	林業専用道延長	作業道延長	計
総 数	43,648	1,200	730	45,578
市町 村別 内訳	敦賀市	—	—	32,580
	小浜市	3,829	1,200	5,029
	おおい町	7,239	—	7,969

注：作業道に森林作業道は含まれていません。（令和4年3月31日現在）

イ 民有林の現況

単位：面積 ha、延長 m、密度 m/ha

区 分	森 林 面 積	林 道		森林作業道		林道+森林作業道		備 考	
		延長	密度	延長	密度	延長	密度		
総 数	79,885	481,136	6.0	1,039,806	13.0	1,520,942	19.0		
市 町 別 内 訳	敦賀市	15,105	70,184	4.6	127,317	8.4	197,501	13.1	
	美浜町	12,569	45,254	3.6	66,586	5.3	111,840	8.9	
	若狭町	11,292	79,254	7.0	184,248	16.3	263,502	23.3	
	小浜市	18,325	121,832	6.6	194,894	10.6	316,726	17.3	
	おおい町	17,266	121,352	7.0	341,969	19.8	463,321	26.8	
	高浜町	5,329	43,260	8.1	124,792	23.4	168,052	31.5	

- 注：1 森林面積（民有林）は、令和4年3月31日現在の数値です。
 2 林道、作業路の延長は、令和4年3月31日現在の数値です。
 3 四捨五入により総数と内訳の計が一致しないことがあります。

ウ 国有林と関係のある民有林林道の開設計画
該当ありません。

4 前期計画の実行状況

(1) 間伐立木材積その他の伐採立木材積

単位：材積 千m³、実行歩合 %

区 分	伐 採 立 木 材 積								
	計 画			実 行			実行歩合		
	主 伐	間 伐	総 量	主 伐	間 伐	総 量	主 伐	間 伐	総 量
総 数	2	36	(4) 38	2	35	(2) 37	100	97	(50) 97
針 葉 樹	2	36	38	2	35	37	100	97	97
広 葉 樹	—	—	—	0	0	0	皆増	皆増	皆増

注：1 計画欄は、前計画の前半5ヶ年に相当する数値です。

2 実行欄は、平成30～令和3年度実績と令和4年度見込量の合計です。

3 四捨五入により総数と内訳の計が一致しないことがあります。

4 ()は外書で、地域管理経営計画等においてあらかじめ伐採箇所が特定できない臨時伐採量です。

(2) 間伐面積

単位：面積 ha、実行歩合 %

計 画	実 行	実行歩合
369	255	69

注：(1)の注1、2に同じです。

(3) 人工造林・天然更新別面積

単位：面積 ha、実行歩合 %

総 数			人 工 造 林			天 然 更 新		
計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
6	1	17	6	1	17	—	—	—

注：(1)の注1～3に同じです。

(4) 林道の開設又は拡張の数量

単位：延長 km、実行歩合 %

種 類	開 設 延 長			拡 張 箇 所 数		
	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
基 幹 路 網	1.5	0	0	—	12	皆増
うち林業専用道	1.5	0	0	—	1	皆増

注：1 (1)の注1、2に同じです。

2 基幹路網とは、林道及び林業専用道を指します。

(5) 保安林の整備及び治山事業に関する計画

ア 保安林の種類別の面積

該当ありません。

イ 保安施設地区の指定

該当ありません。

ウ 治山事業の数量

単位：保全施設 地区、保安林の整備 ha、実行歩合 %

種 類	計 画	実 行	実 行 歩 合
保 全 施 設	5	4	80
保 安 林 の 整 備	49	85	173

注：(1)の注1、2に同じです。

5 林地の異動状況（森林計画の対象森林）

(1) 森林より森林以外への異動

該当ありません。

(2) 森林以外より森林への異動

該当ありません。

6 森林資源の推移

(1) 分期別伐採立木材積等

単位：面積 ha、材積 千m³、延長 km

分 期		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
伐 採	総 数	総 数	(4) 50	59	39	30	33	30	31	27
		針 葉 樹	50	54	39	30	33	30	31	27
		広 葉 樹	—	5	—	—	—	—	—	—
立 木	主 伐	総 数	8	17	23	17	22	26	29	25
		針 葉 樹	8	12	23	17	22	26	29	25
		広 葉 樹	—	5	—	—	—	—	—	—
材 積	間 伐	総 数	42	42	16	13	11	4	2	2
		針 葉 樹	42	42	16	13	11	4	2	2
		広 葉 樹	—	—	—	—	—	—	—	—
造 林 面 積	総 数	20	53	71	83	93	105	111	103	
	人工造林	20	24	51	63	73	85	91	83	
	天然更新	—	29	20	20	20	20	20	20	
林道開設延長		—	4							

注：1 ()は外書で、地域管理経営計画等においてあらかじめ伐採箇所が特定できない臨時伐採量です。

2 四捨五入により総数と内訳の計が一致しないことがあります。

(2) 分期別期首資源表

区	分	面						
		総 数	1・2齡級	3・4齡級	5・6齡級	7・8齡級	9・10齡級	
第Ⅰ分期	総 数	7,279	1	18	51	167	580	
	人工林	総 数	2,018	1	17	42	122	435
		育成単層林 育成複層林	2,018	1	17	42	122	435
	天然林	総 数	5,261		1	9	45	145
		育成単層林	1,523					48
		育成複層林	15					
天然生林		3,723		1	9	45	97	
第Ⅱ分期	総 数	7,275	20	1	52	62	340	
	人工林	総 数	2,014	20	1	48	47	265
		育成単層林 育成複層林	2,014	20	1	48	47	265
	天然林	総 数	5,261			4	15	75
		育成単層林	1,523					
		育成複層林	15					
天然生林		3,723			4	15	75	
第Ⅲ分期	総 数	7,263	44	1	18	51	167	
	人工林	総 数	1,973	44	1	17	42	122
		育成単層林 育成複層林	1,973	44	1	17	42	122
	天然林	総 数	5,290			1	9	45
		育成単層林	1,523					
		育成複層林	44					
天然生林		3,723			1	9	45	
第Ⅳ分期	総 数	7,247	75	20	1	52	62	
	人工林	総 数	1,937	75	20	1	48	47
		育成単層林 育成複層林	1,937	75	20	1	48	47
	天然林	総 数	5,310				4	15
		育成単層林	1,523					
		育成複層林	64					
天然生林		3,723				4	15	
第Ⅴ分期	総 数	7,265	114	44	1	18	51	
	人工林	総 数	1,935	114	44	1	17	42
		育成単層林 育成複層林	1,935	114	44	1	17	42
	天然林	総 数	5,330				1	9
		育成単層林	1,523					
		育成複層林	84					
天然生林		3,723				1	9	
第Ⅵ分期	総 数	7,283	136	75	20	1	52	
	人工林	総 数	1,933	136	75	20	1	48
		育成単層林 育成複層林	1,933	136	75	20	1	48
	天然林	総 数	5,350					4
		育成単層林	1,523					
		育成複層林	104					
天然生林		3,723					4	
第Ⅶ分期	総 数	7,301	158	114	44	1	18	
	人工林	総 数	1,931	158	114	44	1	17
		育成単層林 育成複層林	1,931	158	114	44	1	17
	天然林	総 数	5,370					1
		育成単層林	1,523					
		育成複層林	124					
天然生林		3,723					1	
第Ⅷ分期	総 数	7,319	176	136	75	20	1	
	人工林	総 数	1,929	176	136	75	20	1
		育成単層林 育成複層林	1,929	176	136	75	20	1
	天然林	総 数	5,390					
		育成単層林	1,523					
		育成複層林	144					
天然生林		3,723						
第Ⅸ分期	総 数	7,342	174	158	114	44	1	
	人工林	総 数	1,932	174	158	114	44	1
		育成単層林 育成複層林	1,932	174	158	114	44	1
	天然林	総 数	5,410					
		育成単層林	1,523					
		育成複層林	164					
天然生林		3,723						

注：四捨五入により総数と内訳は合わないことがあります。

単位：面積 ha、材積 千m³

積						材 積
11・12齡級	13・14齡級	15・16齡級	17・18齡級	19・20齡級	21齡級以上	
1,394	1,398	523	789	513	1,848	1,105
619	416	73	78	91	127	450
619	416	73	78	91	127	450
775	982	450	711	422	1,721	655
199	316	67	167	114	612	229
	15					2
576	651	383	544	308	1,109	424
1,058	1,440	1,029	540	685	2,051	1,143
615	575	146	56	46	198	453
615	575	146	56	46	198	453
443	865	883	484	639	1,853	690
74	396	130	190	104	629	244
	15					2
369	454	753	294	535	1,224	444
580	1,390	1,395	519	748	2,353	1,170
435	615	400	65	26	209	455
435	615	400	65	26	209	455
145	775	995	454	722	2,144	715
48	199	316	67	167	726	245
		28	4	11	1	12
97	576	651	383	544	1,417	458
340	1,058	1,443	980	507	2,712	1,186
265	615	545	94	17	213	448
265	615	545	94	17	213	448
75	443	898	886	490	2,499	738
	74	396	130	190	733	248
		48	3	6	7	19
75	369	454	753	294	1,759	471
167	580	1,410	1,325	468	3,090	1,203
122	435	615	310	14	224	445
122	435	615	310	14	224	445
45	145	795	1,015	454	2,866	758
	48	199	316	67	893	250
		20	48	4	12	27
45	97	576	651	383	1,961	481
62	340	1,058	1,413	920	3,209	1,215
47	265	615	475	34	220	435
47	265	615	475	34	220	435
15	75	443	938	886	2,989	780
		74	396	130	923	252
			88	3	13	34
15	75	369	454	753	2,053	494
51	165	580	1,430	1,195	3,548	1,219
42	120	435	615	160	228	421
42	120	435	615	160	228	421
9	45	145	815	1,035	3,320	798
		48	199	316	960	251
			40	68	16	44
9	45	97	576	651	2,344	503
52	59	333	1,058	1,293	4,119	1,221
48	44	258	615	315	244	410
48	44	258	615	315	244	410
4	15	75	443	978	3,875	811
			74	396	1,053	252
				128	16	46
4	15	75	369	454	2,806	513
18	51	157	580	1,300	4,748	1,228
17	42	112	435	465	373	399
17	42	112	435	465	373	399
1	9	45	145	835	4,375	829
			48	199	1,276	253
				60	104	54
1	9	45	97	576	2,995	522

7 その他

(1) 持続的伐採可能量

単位：千m³

主伐（皆伐）の上限量の目安（年間）
11.39